



IL

Faculty of Literature
and Human Sciences
Osaka City University



大阪市立大学
文学部案内冊子 2017

学部長 interview



大阪市立大学文学部長
哲学歴史学科 日本史コース教授
仁木 宏 先生

～市文 History～

- 1949 法文学部文学科創設（文学部の前身）
- 1953 文学部創設
- 1954 修士課程設置
- 1955 博士課程設置
- 1968 5学科 12専攻
- 1999 3学科 15コースに改編
- 2001 正式名称が「大阪市立大学大学院 文学研究科・文学部」に
- 2002 文部科学省の「21世紀COEプログラム」(旧TOP30)に採択
- 2010 3学科 13コース 2領域（文学部） 4専攻 15専修（文学研究科）に改編

魅力はなんですか？

色々な学問分野が文学部という1つのまとまりのなかにあることが、市大文学部の最大の魅力だと思います。

心理学や社会学などの課程が別の学部にある大学もありますが、市大文学部には哲学、歴史学、国文学、英文学といった、いわゆる文学部によくある分野から、心理学、社会学など比較的新しい学問、さらには表現文化、言語応用といった市大文学部独自の学問分野がそろっています。教育学部ではないのに教育学まで含んでいます。

また、少人数教育であることも魅力の1つです。コースにもよりますが、毎年1人の先生が1人から5人くらいの学生の卒業論文を指導しています。先生との距離が近いので、ひとりひとりの学びに合わせたきめ細かな教育が可能になり、学問を究めようとする人にとっては大きなメリットであると思います。さらに、地理学ではフィールドワー

ク、社会学ではアンケート調査、心理学なら動物実験など、その分野ならではの学問的手法を学ぶことができます。受験生のみならず、持った「文学部」のイメージを覆す学びがきっとありますよ。

市大文学部生の印象はどうですか？

真面目、ですね。また、問題へのアプローチの仕方が異なる幅広い学問を扱っているためか、市大の他の学部と比べて、多様な学生が集まっている印象があります。

これからの社会の中で文学部の役割はなんですか？

社会に即戦力として役立つとか、即応するための学問とは違うところに文学部の特徴があると思います。急速に変化する現代社会のなかで、文学部での学問や、文学部で学生を育てることが意味があるのか、という意見もあり

ます。しかし、すぐに社会に役立つ学問ばかりで、人間社会や我々の未来が上手くいくとは限りません。

過去を知り、人間の思想や社会の根本を学ぶことによつて、物事の本質を明らかにしようとするのが文学部の学問です。百年、千年という長さで人間の未来を考えたときに生きてくるものを、文学部が生み出しているのだと思います。

文学部で昔の人の思想や歴史、人間の行動の意義、言語の成り立ちや文化、表現などを学んだみなさんが、教員・公務員になったり、企業で働くことが、日本や世界の未来にとつて意味のあることなのだと思います。

市大文学部のコース選択が2回生からであることのメリットはなんですか？

市大文学部のなかには、入学当初から進みたいコースを決めていて、そのままそのコースへ入る人もいます。かと思えば、大学での学問に触れるうちに、入学当初とは興味が変わる人も、また1年かけて自分の関心を見つける人もいます。1年間学んでいくなかで

自分に合った学問領域を発見できることが、この制度のメリットであると思っています。

どのような人に市大文学部に来てほしいですか？

色々な人に来てほしいですが、あえて言えば、物事を柔軟に考える力をつけたい人に来てほしいですね。大学の4年間では、入学までの自分のあり方も大事にする一方で、これまでの自分の殻をやぶる体験をしてほしいと思っています。そのきっかけは学問やサークル活動など何でもかまいません。

既成概念にこだわらなくて、何か今までと違う「おもしろいこと」に積極的に取り組み、次のステップに活かせることを掴んで卒業してほしいと思っています。

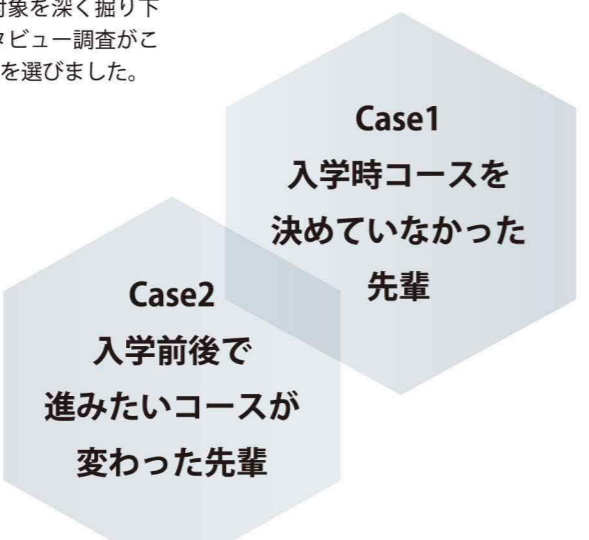
ありがとうございます。インタビュー 1回生 東野 桃、安田 奈央

Course Choice



2回生 人間行動学科 社会学コース
行田 美希さん

大阪市立大学文学部では1年間かけて、2回生以降に所属するコースを決めることができます。先輩たちはどのようにして所属するコースを決定したのでしょうか？
2回生の先輩2人にインタビューしてみました。



Q. 入学時はどのコースに決めていましたか？

A. 日本史コースに決めていました。高校生のとき、歴史や公民の科目が好きだったからです。また、将来は社会科の教員になろうと思っていました。

Q. そこから1回生の間で、進みたいコースはどのように変わりましたか？

A. コース選択を左右したのは1回生のときに受けた授業でした。最初は入学時に決めていたコース選択が、自分の興味に合っていると思っていました。しかし、1回生向けの、各学科の入門にあたる授業を受けて他のコースでの学びにも興味を持ち、コースを迷い始めました。社会科の教員を目指していたことと関連して、教育学コースが候補としてありました。また、「コミュニティ防災」という授業を専門科目とは別で受けたことで、防災教育に興味を持ちました。教員志望だった大学入学までの自分の思いと、入学後の防災についての学びが繋がり、最終的に教育学コースを選びました。

Q. 大学で学びたいことは決まっていたか？
A. はい、ぼんやりと決まっていた。民族衣装やお祭りを見るのが好きで、文学部では民族にかかわることを勉強したいと思っていました。とはいえ、民族の研究といっても歴史、宗教、哲学など切り口は様々で、その分コースはかなり迷いました。最後まで迷っていたのは哲学コースと社会学コースの2つでした。民族宗教について学ぶには、宗教学の先生が所属している哲学コースを選びたいと思ったからです。

Q. 社会学コースに決めたいきっかけ、決め手は？
A. 社会学で用いる調査の手法に惹かれたことです。私は1回生の9月に北海道へ旅行に行き、アイヌ民族集落で地域住民の話を聞きました。そして人との関わりを通して物事を考えることが面白いと感じました。社会学では、アンケート調査のような研究対象のサンプルを大量に得て調査する手法を「量的調査」といいます。一方で、研究対象を深く掘り下げて調査する「質的調査」という手法があります。インタビュー調査がこれにあたると知り、調査手法に魅力を感じた社会学コースを選びました。



2回生 人間行動学科 教育学コース
山下 高輝さん

文学部・文学研究科 組織図



哲学歴史学科
われわれは何者なのか？どこから来て、どこへ向かって進んでいくのか？新しい世紀を迎えて、従来の文化的・社会的伝統の克服が叫ばれています。しかし、私たち人間が歩んできた道のりがどのようなものだったのか、人間とは何者なのかを理解しなくては、私たちの未来の明確なイメージを描くことは決してできないでしょう。哲学歴史学科は、このようにいわば人間のアイデンティティーにかかわる根本的な問題について、ともに考えていくことを目指しています。

人間行動学科
情報化や国際化によって変化していく今日、心の世界、人と人とのつながり、自然との共生などへの関心が高まっています。人間行動学科では、観察・調査・実験といった科学的方法にもとづき、人間の行動、私たちの社会・環境、そして両者のかかわりについて、多様な角度から明らかにしています。各コースの学問分野を中核とし、それらを有機的に結びつけた独自のカリキュラムにより、「人と環境」の複雑さを、様々な視点から理解できる人材の育成を目指しています。

日本史コース

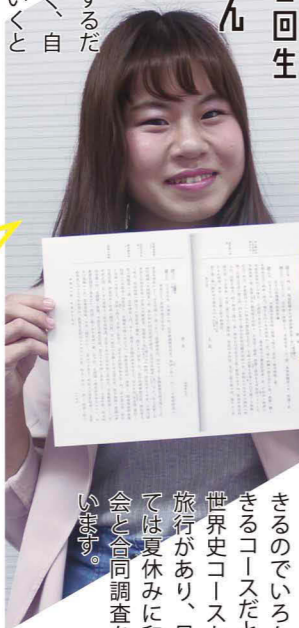
先生に聞いたを!

日本史コースとは

日本史コースでは古文書・日記・書物・考古遺物といった史料を読むことを大切にしています。高校までの日本史は人名や年号などを覚える暗記科目のイメージが強いかもしれませんが、大学では史料をきちんと読みこなし、そこから一つでも多く情報を引き出して自分が興味関心のある過去の時代・出来事を再構成するということを学びます。教科書に

日記を読むと過去の人物と対話ができる(磐下先生)

日本史コース3年生 松岡美里さん



書かれていることを暗記するだけの受け身の勉強ではなく、自ら発見して明らかにしていくという意味ではとてもクリエイティブな営みだと思います。教員の研究分野は古代史から近現代史と幅広く、五人の共通テーマとしては「大阪の歴史」を特に都市史を中心に取り組んでいます。

先生に聞いたを!

私のオススメの人は前田利家の正室、まつです。まつは戦国を代表する賢妻の一人で、一族繁栄のために政治力を発揮します。家康から人質としてまつを差し出すことを要求されたとき、家督を継いだ長子の利長に「家のためには母を捨てなさい」と伝え、自らすすんで江戸に赴きます。肝の座った生き様がカッコいいと思います。

卒論

- ▼律令官人化政策と大伴氏
- ▼因幡国をめぐる毛利方と羽柴方の戦略について
- ▼大坂の町触から見る大工
- ▼八・九世紀外交文書からみる天皇と太政官の関係

日本史コースにとって「流行」とは?

歴史学の研究対象としての「流行」といえば、伝染病が思い浮かびます。中世ヨーロッパのペストの大流行は、社会を大きく変えたことが知られています。日本でも、歴史に大きな影響を与えた伝染病の「流行」が確認できます。例えば奈良時代の七三三〜七三七年には天然痘が大流行し、人口や生産力が大幅に低下して、政府の有力者たちも次々と病死しました。これにより、政府の統治方針が大きく変更されたことが知られています。また、こうした伝染病の「流行」は非常事態であり、通常時には確認できないような史料が残されることもあります。七三七年に出された政府の命令書の内容が伝わっています。そこには天然痘の治療法として、腰や腹を温める、お粥などを食べるようにし、魚や肉を食べるはならない、などといったことが記されています。これは、当時の医療を考えると貴重な史料といえます。伝染病の「流行」は、いうまでもなく不幸な出来事です。その一方で、過去の社会の様子や、困難を乗り越えてきた人々の生活のさまを知る、大きな手がかりともなるのです。(文・磐下先生)

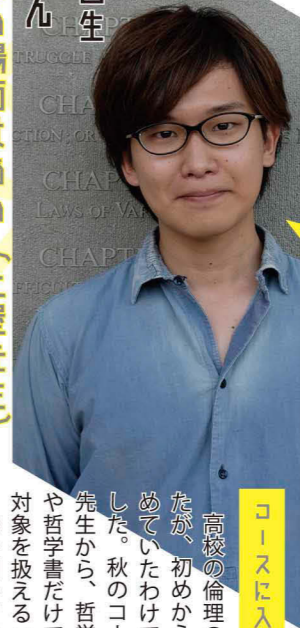
哲学コース

先生に聞いたを!

哲学コースとは

哲学は難しいというイメージを持たれるのは、物事を抽象的に表現したり、調べてもわからない問題について考えたりするからでしょう。哲学は、個々に起こっている具体的な出来事より、それらに共通する普遍的な事柄を探求するので、どうしても抽象的な言葉づかいになりがちです。市大文学部の哲学コースは西洋哲学を扱っており、宗教哲学・美学・倫理学(道徳哲学)の教員もいます。大学で哲学を学びたいと決めてきた学生も少

哲学コース3年生 平尾慧嗣さん



先生に聞いたを!

哲学といってもいろいろな考え方がありますので、大学で哲学をやりたいならまずはある程度哲学史を学んでおいた方がいいかもしれません。哲学史についての読みやすい本としては、今道友信の『西洋哲学史』がお勧めです。講義を記述したものであるので読みやすいですし、内容も正確だそうです。

卒論

- ▼ショーペンハウアーから探る、生の苦悩とその救済について
- ▼スピノザにおける幸福論の意義について
- ▼なぜ何も無いのではなく、何かがあるのか

哲学コースにとって「流行」とは?

「流行」とは何か? 国語事典には「①服装・言葉・思想などが一時的に世間に広く行なわれること。②病気が急速な勢いで世の中に広がること。③俳諧で、時代とともに変わり新しくなるもの」というような語義が書いてある。②は医学部、③は国語国文学コースのテーマだろうから①について考える。哲学の世界にも「流行」はある。ある時期に多くの研究者が取り上げるテーマは確かにある。しかし、それが何だ。哲学の長い歴史から見れば、数十年にわたる「流行」でさえ、さざ波にも及ばない。ときどき「最近の哲学のトレンドは何ですか?」とか聞かれるのだが、内心「そんなの関係ねえ!」と思いつつながら答えている。哲学とは、どんな時代でもどんな場所でも誰にでも通用する真理や正しさを探究することだからだ。「はやりの哲学」にしか興味がない人は、哲学をファッションアイテムとして身に着けたに過ぎない。人類の哲学的思索の数千年に及ぶ蓄積をなめてはいけません。新しい着想も必ず、どこかで誰かが、とつくの昔に考えていたことに違いないのだ。(文・土屋先生)

磐下先生の研究内容

私の研究テーマは今のところ大きく三つ設定しています。一つは大学院生の頃からずっと続けている、奈良・平安時代の地方行政や各地方を治める郡司についてです。国や社会のあり方を考えるときには、中核となる権力がどのようにして地方を把握して支配していたのかを知ることがとても重要になります。また郡司の研究を通して当時の庶民の様子を窺うこともできるのではないかと思います。卒業論文のテーマに選ぶと決めました。二つ目は平安時代に貴族によって書かれた日記を讀解して当時の制度や仕組みを明らかにすることです。日記を読むことでその人が何を考えていたのか、何を記録しようと思ったのか、という考え方や心の有り様までわかってきて、千年以上も前の

日本史コース 准教授 磐下徹先生



オススメの人

草川庄八(1935 - 1998) 日本古代史の研究者。主著に『日本古代官制の研究』『宣旨試論』などがある。天皇制、官僚制、財政史、古文書学の分野で大きな業績を残した。史料を博搜(はくそう)した実証的な研究は、他の追随を許さない。平安時代の史料を用いて奈良時代を論じられることを示し、その後の研究潮流に大きな影響を与えた。

哲学コース 准教授 土屋貴志先生



オススメの人

アリストテレス 誰よりも「違いのわかる男」。恐るべき観察力で万学の基礎を築く。「観察することこそ幸福であり最高善だ」と主張し、最期はアテーナイを追われ病死したにもかかわらず、その通りの幸福な人生を送ったと思われる。文章はひたすら記述的で面白味に欠けるが、読むたびに「こんなことにまで気づいていたのか」と驚かされる。

先生から見たコース

先生方はやる気があれば熱心に指導してくれます。授業の他に読書会や哲学カフェという場も設けられています。読書会では難解な哲学書を読む力を磨き、哲学カフェでは自分の疑問を他の人と共有して自分の持っていない視点から考えることができます。疑問に感じたことを言葉を使って徹底的に考える方法を学べるコースだと思います。

先生から見たコース

中学生の頃から大河ドラマを見ていたのがきっかけで日本史に興味を持ち、漠然と大学に行ったら日本史を学びたいと思っていました。さらに高校までの教科書からの知識をただ単に暗記する勉強だけではなく、実際に史料に触れて自分で歴史を解明するということにも興味を持ち、日本史コースに進むことを決めました。

先生から見たコース

高校の倫理の授業は好きでしたが、初めから哲学コースに決めていたわけではありませんでした。秋のコースガイダンスで先生から、哲学コースは哲学者や哲学書だけでなく様々な研究対象を扱えるコースであるという話を聞いて興味を持ち、その後先生の研究室に伺い、コースでの学びについて教えていただいたことがきっかけです。

歴史学とは、人間の登場から現在に至るまでの人間の営みと経験を、時間軸を意識しながら解明し、解釈することを目指す学問分野です。まんべんなく知識を吸収することを主眼とする高校までの勉強と違い、大学で学ぶ歴史学は、個々人の興味関心から特定の地域と時代に焦点をあて、過去の様々な社会をどう理解するかが重要になります。今とは異なる時代、日本以外の国や地域を理解することで、現在を違った視点から見るることができるのではないのでしょうか。そういった意味で、歴史学に取り組むことは興味深く、また意味があると考えています。

先生に聞きたい！
東洋史分野とは

オスマン帝国史を扱っています。大学では外国語学部の英語専攻でしたが、違う世界のぞいてみたいという気持ちで研究を始めました。バルカン半島や中東で事件が多かった時代でもあり、おのずと関心が向いたのかもしれない。現在は、上位概念としての「宗教」に関心を持っています。キリスト教やイスラーム、仏教などを横並びに捉える現代の認識は、近代のヨーロッパに発すると言われています。その隣のオスマン帝国は、多様な宗教、言語、民族が混在する、まさに多文化共生の国でした。ヨーロッパの影響も受けつつ、様々な価値観が混在する

上野先生の研究内容

先生や学生は、のんびりとした雰囲気ですが、やることはきちとやる人が多いです。授業は先生によってとても特色があり、オスマン帝国やビザンツ帝国などマイナーな地域もカバーされているのは珍しいと思います。また、普段から史料を読む機会が多いので、日常生活でも言葉の微妙なニュアンスや文脈を自然と考えるようになりました。

学生から見たコース

東洋史分野3年生 石本雅之さん



東洋史分野 准教授 上野雅由樹先生

オスマン帝国で宗教に対する見方が19世紀にどのように変わっていったのか、これが今の研究関心です。

オスマンの人

ヒュッレム
16世紀オスマン帝国の君主、スレイマンの妃。女性の活躍を見出すことが難しい世界の歴史のなかで、知略を用いて後宮の女性が絶大な権力を握る先駆けとなった人物として注目に値します。その生涯は劇的であり、様々な解釈を交えてトルコでテレビドラマに、日本では漫画の題材になっています。

オスマンの人

マルク・ラエフ
「おすすめの人」はロシア史の研究者マルク・ラエフです。特にこの方のロシア帝国の通史的著作『ロシア史を読む』は日本語に訳されており比較的取りやすくて、30年以上前の著作にもかかわらず、現代のロシア帝国研究にも通用するだろうロシア帝国の現実・改革・危機の骨組みをよく解説してくれていると思います。

卒論

- ▼20世紀初頭英領インドの監獄における囚人の矯正について
- ▼19世紀後半のオスマン帝国における孤児授産施設

東洋史分野にとって「流行」とは？

歴史学は過去を対象とする学問だからこそ、研究のなかでは過去の様々な「流行」に出くわします。歴史家はそうした現象を、その時代を特徴づけるものとして、つまりその時代を理解する手がかりとして利用しています。それは、服装にはじまり、美術や音楽、建築様式、行楽のあり方、さらには疫病など様々です。たとえば、オスマン帝国の首都イスタンブールでは、16世紀にコーヒーの飲用が始まり、コーヒー店が急速に拡大しました。こうした現象を歴史学は、単に人々の飲み物が変化しただけにとどまらず、屋外で人が集まって交流し、情報交換をするというような社会的側面、それに付随して様々な詩や音楽などが花開くといった文化的側面、さらに新たな製品の流行がその流通路を活性化させるという経済的側面など、様々な観点から見ていくことができます。さらに、オスマン帝国で飲用が一般化したコーヒーは、その後世界的に流行し、今日のカフェ文化につながっていったわけで、世界的な広がりを見ていくことも、外国の歴史を学ぶ魅力の一つです。(文・上野先生)

社会学実習Ⅰ・Ⅱ

3年次に通年で履修する授業。社会調査やフィールドワークを実施する。写真はフィールドワークで訪れた地域での集合写真。

フランス語圏言語文化演習Ⅰ

コミュニケーションとは何かについて、言語学、哲学、心理学、社会学などの知見をふまえてグループワークで議論しながら進めていく授業。

世界史コース

先生に聞きたい！
西洋史分野とは

歴史研究は、生の史料に実際に触れて読み、それを通して過去を見ることから始まります。史料は、わかりやすく整えられた資料集とは全く違うのです。史料の細かいところを徹底して調べることによって、全体を見る視点が得られます。これはやってみないとわからないので、歴史をやりたい人にはぜひ経験してもらいたいですね。また、世界史コースは、文学部で一番多くの言語を扱うコースです。二ヶ国語くらい使って卒論を書く人もいます。旅行が好き、異文化を見て面白いと感じる人にとって、世界史コースはぴったりだと思いますよ。

大黒先生の研究内容

13~15世紀のイタリアにおける、読み書き能力の研究をしています。読み書きの知識がないにもかかわらず、かろうじて文字を書いた人の読み書き能力を、私は「限界リテラシー」と呼んでいます。当時、庶民の日常語の書き言葉は完成していませんでした。そんな中、魔女裁判にかけられたり、市外追放されたりといったぎりぎりの状況に追い込まれることで、「限界リテラシー」による文章が急速に出てきたのです。このような読み書き

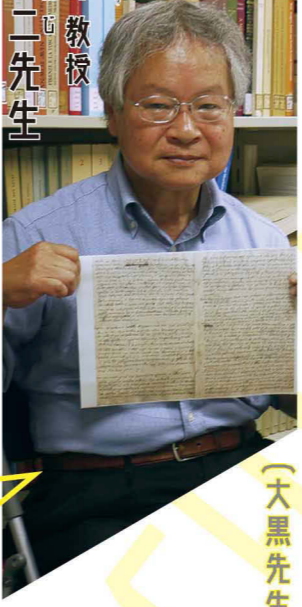
コースに入ったきっかけ

もともと、宗教に関心がありました。同じ宗教でも、コースによってアプローチが異なりますが、私が知っていたのは、「宗教と社会がどういう風に関わっているか」ということでした。世界史において、宗教は常に重要な位置を占めていますし、今の宗教を知るためにも、世界史から入るのが一番だと思いました。

西洋史分野3年生 市原律子さん



西洋史分野 教授 大黒俊二先生



書く文化とはどういうものだったのか？ (大黒先生)

きと社会変動の繋がりを、明らかにしていきたいと考えています。現在は、手書きの文字を書くことが少なくなっている時代です。この研究を通して、書く文化とはどういうものだったのかを考え直してみたいと思っています。

オスマンの人

フィデル・カストロ
このキューバ革命の指導者を挙げたいと思います。彼に特別な思い入れがあるわけではありませんが、「革命家」という今では消滅した人間類型の最後の代表者として私には忘れがたい存在です。この老革命闘士の姿を見る度に、革命も一つの「流行」であり、流行である以上終わりがあつたことを痛切に感じさせられました。

オスマンの人

フランシスコ・ザビエル
日本にキリスト教を伝えた人物として知られるザビエル。西洋史の視点から彼の伝道を見ると、世界の一体化、という歴史の大きなテーマの一つが浮かび上がります。市大の隣の堺市に彼の名を冠する「ザビエル公園」があります。日本史と世界史の繋がりを感じに行ってみてはどうでしょうか？

西洋史分野にとって「流行」とは？

「流行」とは社会がその奥底から発する声であり、社会が動き変化する以上流行にも終わりがありません。歴史研究に携わる私にとって気になるのはこの流行の終わりとその意味です。「オスマンの人」に挙げたフィデル・カストロは、「革命」も一つの流行であり流行としての革命が終わりを告げたことを示しています。革命をAKB48や流行語大賞などと同じベルで「流行」と称するのは不適切かもしれませんが、これらに共通しているのは、流行にはそれが終わること初めて見えてくるものがあるということです。最後の革命家たるフィデルが昨年未だ亡くなったこと、革命や革命家も始めと終わりのある一つの歴史現象であることが明らかになりました。終わること見えてくるものに注目するのが歴史研究の重要な役目です。その意味で歴史研究はヘーゲルのいう「ミネルヴァの鳥」に似ていますが、この「鳥」はヘーゲルのいうような生の凋落期(ちよらくき)にある「灰色」の鳥ではなく、新たな認識をもたらして世界を見る目を変えてくれる導きの鳥なのだと思っています。(文・大黒先生)

卒論

- ▼19世紀のポーランドにおけるユダヤ人酒場経営について
- ▼ドミニク・ヴィヴァン・ドノンのイタリアにおける美術品押収活動

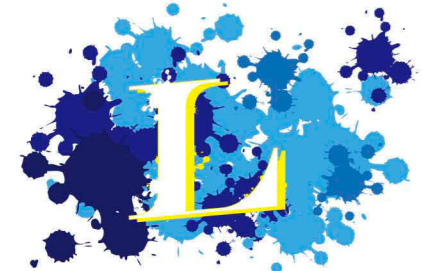
授業風景

東洋史講読Ⅲ

近世、近代の東地中海に関する文献を読みすすめる授業。学生が自主的に発表したり、議論に取り組みたりする。

言語文化概論Ⅰ

言語や文化や文学の多様な姿を学び理解を深める授業。1回生向けに言語文化学科の各コースの先生によるオムニバス形式で行なわれる。



※データは2017年現在のものです。

心理学コース



先生に聞いた！

心理学コースとは

高校には「心理学」という授業はありません。そのため、「心理学」という言葉を聞くと、カウンセリングや臨床心理学を思い浮かべるかもしれません。しかし、市大文学部の心理学コースでは、実験・観察・調査といった客観的な方法によって、人間や動物の心や行動に関する法則性を見つめる「基礎研究」を行っています。

また、ひとくちに心理学といっても様々な分野があります。心理学コースの教員の研究対象を挙げるだけでも、対人関係、自己文化、認知、脳、行動など多岐に渡ります。理論的に考えるだけでなく、その理論が本当に正しいのかを実際のデータを基に自ら実証します。それがこのコースの魅力と言えるでしょう。

動物と比較することで、人間を理解する（佐伯先生）



心理学コース 准教授 佐伯大輔先生

こんなにも動物について知る必要があるのか？と疑問に思われるかもしれませんが、動物を調査することだけが目的ではありません。他の動物と比較することを通して、人間というものを理解できるのです。

オススメの人

B.F. スキナー (1904-1990) というアメリカの心理学者を紹介し、ヒトや動物の行動の多くが、行動の結果によって影響されるという「オペラント条件づけ」の原理を発見した人物です。「行動の原因を環境に求める」という姿勢は、行動法則を探究する基礎研究と行動改善を目的とする応用研究の両方で役に立っています。

オススメの人

沈黙の螺旋理論の提唱者であるノエル・ノイマンです。同調を求める社会的圧力によって少数派が沈黙を余儀なくされる現象です。米大統領選挙の報道でトランプの発言が批判され、トランプ支持の表明にリスクを感じた人が多かったのではないのでしょうか。この理論を知っていれば、トランプ勝利を予想できたのかもしれない。

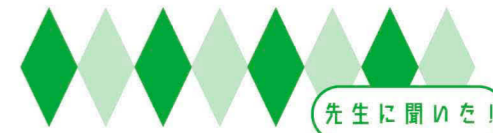
卒論

- ▼大学生を対象としたブランド価値測定
- ▼犯罪者に対する反応に見られる黒い羊効果
- ▼代理報復における等質性認知の影響の検討

心理学コースにどうして「流行」とは？

流行は、「複数の人々が、特定の物事や行動に対して、ある期間、共通の好みを示すこと」と定義できます。流行の現象を心理学で扱う場合には、流行がどのように発生し、人々の間でどのような過程を通して広まっていくのか、また、流行が広まる速さや持続期間はどのように決まるのかなどを、実験や調査によって確かめていきます。一般に、「流行」は、「同調行動」や「対人魅力」など、社会心理学で研究されるテーマに関係しています。私が専門とする学習心理学や行動分析学では、個人レベルでの学習を研究対象としています。例えば、「流行している服を買う」という場合、その人にとって、「流行している服」は、弁別刺激として機能しており、その服を買う行動は、結果（その服を着て歩く）と多くの人が振り返ることなどによって強化されているというふうに分かれます。流行が一時的であるのは、行動を強化する刺激の効力が一時的なものであるためと考えられます。（文・佐伯先生）

社会学コース



先生に聞いた！

社会学コースとは

高校までの「社会科」では、政治や経済など、国を成り立たせている仕組みについて学ぶことが多いでしょう。しかし、大学の「社会学」では、研究対象はそれだけに限定されず、家族・環境・都市の問題・マイノリティ・ジェンダーなど様々です。ニュースで取り上げられている問題など、世界や日本で現代起こっている事柄について研究できる一方で、自分の体験や感覚などの個人的な問題から出発して学びを深めていくことができる学問

でもありません。皆さんも、普段の生活を送るなかで、家族や友達との関係について考えることがあるでしょう。社会学では、パーソナルな事柄を、より広い社会の文脈に位置づけながら考えることができます。それは社会学ならではの魅力と言えるでしょう。

オススメの人

オススメは鈴木翔さんという2年次に受講した授業で取り扱った教育社会学に関することを研究されている方です。学校におけるスクールカーストや、SNSでのアカウント使い分けにも見られる所属集団によって自分のキャラを使い分けることなど、現代の若者を取り巻く友人関係のルールと社会の関係性について取り上げていました。

社会学コース 3回生 上坂美桜さん



高橋晴代 地元の大学の先生が、地元の特産品を売り、地域活性化に繋げる活動をテーマに授業をしてくださる機会がありました。それをきっかけに自分でも調べてみると、地域活性化は社会学で学べることを知りました。社会学は本当に幅広い学問なので、学びを進めていくなかで、他の分野への興味もどんどん広がっています。

卒論

- ▼現代日本の子育て支援のかたち
- ▼自治体公認のゆるキャラとメディア社会の変容
- ▼「〇〇系女子」の記号消費的考察

私が専門としているのは、都市社会学という学問です。「空間と社会の結びつき」という観点から、都市における様々な社会現象について研究しています。例えば、田舎では起こっていない現象が、都市では起こっているということが面白いです。そういったことが面白いと感じ、都会的な現象について研究しようと思うようになりました。なかでも、私は絵画や彫刻、音楽といったアートに興味があるので、文化社会学の視点から、アートを生み出す社会的な環境を研究対象にしています。作品そのものを解釈したり、評価したりするわけではなく、作品の生産・流通・消費という一連の流れの背景にある市場関係や、芸術家たちがどのような生活をして、どのようにして作品を創るのか、

オススメの人

ノンフィクション作家の最相 葉月さん。『絶対音感』『セラピスト』など科学をテーマにした著作が中心ですが、星新一や東京大学応援部を描いた本もあります。丁寧な取材の進め方や、対象に向き合う真摯な姿勢が、物静かだが気持ちのこもった文体から伝わってきます。このような物書きになりたいと強く思わせてくれる人です。



社会学コース 講師 笹島秀晃先生

現在、アメリカや東京ロンドンと比較しながら、都市における芸術の制度が20世紀のなかでどう変わってきたのかという点に興味を持っています。

学生から見たコース

概論や基礎論の授業では、社会学の様々なテーマについて幅広く学べます。3年次になると、実習が始まります。調査法やデータの処理法について学んだうえで、実際に町に出かけ、フィールドワークを行います。フィールドワークや20名ほどの少人数の授業を通して、先生方やコースの仲間との距離がぐっと縮まります。

社会学コースにどうして「流行」とは？

学生から「卒論のテーマを流行にしたい」といわれるとドキッとしてしまう。流行を社会的に研究することは難しい。もちろん社会学が流行を研究するのには不向きということではない。むしろ流行は19世紀末の社会学の黎明期から検討されてきた重要なトピックである。たとえばゲオルグ・ジンメルは、人々が流行を採用する動機を同調性と差別化の欲求の統一として分析している。ガブリエル・タルドは劣等者による優等者の模倣の法則として説明している。こう聞くと、なるほど流行についてわかったような気にもなる。ところが、それを実証的に検討しようとするとなると迷うことが増えてくる。イメージや商品が、どの程度広まれば「流行」になるのか。流行が拡散する過程は、どのようなデータを取れば明らかになるのか。きつと個人の意見や態度の総和には必ずしも還元できない、現象の集合性にたじろいでいるのだろう。しかし、だからこそ「社会」の手触れだとも思う。（文・笹島先生）

地理学コース

先生に聞いた!

地理学コースとは

大学で行なう地理学の研究は、高校で地理を履修しないと研究できないわけではありません。もちろん、地理的・空間的知識を高校で身につけるに越したことはないですが、そうでなくとも問題はあります。大学での地理学は人間と環境の関係を考えます。この場合の環境とは自然環境だけでなく社会環境、人文環境などが含まれます。つまり、そのような事象でも地理学の研究対象になります。地理学

東南アジアにおける資源利用と問題(祖田先生)

地理学コース 祖田亮次先生



私は東南アジアにおける資源利用についての研究を行なっています。例えば、マレーシア・サラワク州では一九七〇年頃から日本などに木材を輸出するための森林伐採を行なってきました。その影響で森林が減少し、国際的困難を浴びたことから、最近ではプランテーションという形でアラヤシを植え、パーム油輸出による外貨獲得を行なうようになりました。プランテーションは一見土地の有効活用を行なっているように見えますが、実際は現地住民の土地の収奪、農業・肥料による河川の水質汚濁、外国人労働力の流入など様々な問題が起きている。日本にサラワク州の現状を紹介する意味でも今の研究を行なっています。サラワク州での研究を始めたきっかけは偶然の重なりで

地理学コース3年生 龍口都さん



教室の教員が研究している内容は、都市の住宅問題や貧困問題、感染症の伝播パターン、沖縄の基地問題、東南アジアの資源利用などです。基本的に地理学では研究できない対象はないので、何か一つでも関心のあることがあればぜひ地理学コースに来てください。

先生に聞いた!

私のオススメの研究者は、本学教授の山崎孝史先生です。政治地理・沖縄研究を専門に研究されています。先生が書かれた『政治・空間・場所-政治の地理学-』(ナカニシヤ出版)と、一部を執筆された『人文地理学への招待』(ミネルヴァ書房)は、地理学という学問についてこれから知りたいという方にぴったりの入門書です。ぜひ一読ください!

卒論

- ▼日本で暮らす日本人ムスリマのコミュニティの特徴
- ▼地域ブランドにおける地名選択と生産過程における空間スケール
- ▼地理的犯罪データ分析の防犯活動への活用可能性

地理学コースにとって「流行」とは?

学問にも流行があります。かつては欧米の流行をいち早く読みこなし、日本に紹介するだけで学界の寵児になり得た時代もありました。今はそれほどでもありませんが、少なくとも地理学に関しては、理論的にはまだ欧米の潮流に十年遅れているという感じがします。かといって、欧米で流行していることを紹介しても、それが有益な作業になるとは限りません。最近流行り廃りが激しくて、最新の理論を紹介しても日本で浸透する頃には欧米では消え去っているというところもしばしばです。日本人(日本の地理学者)は現場の調査は緻密にやるけど、それを分析・考察し、理論化するのには不得手だと言われます。逆に欧米では、同じような「ネタ」でも、新しい視点や概念、理屈で解釈しなおすことに躍起で、「〇〇論的転回」とか「〇〇主義地理学」という言葉にあふれています。学問の新潮流を場合によって無理やり、創り出そうとする行為や、流行に後れないよう必死に追いかける努力は、学問的に重要な作業ですが、ときに滑稽に映ることもあります。学問の流行って何なのでしょう。(文・祖田先生)

先生に聞いた!

オススメの人

著名な物理学者で災害研究者でもありました。湯呑から立ち昇る湯気を見ながら大気の流れを考えるような人です。大地震の揺れに脅えながら、その詳細記録を残すような人です。論理を重視する科学者であり、自分の目で物事を見極めようとするフィールドワーカーでもあり、かつ気の利いた文章を書く随筆家でもありました。

コースに入ってきたきっかけは、大学に入ってから人間行動学コースに興味を持っていました。ガイダンスや先輩の話を聞いていくうちに土地ごとに存在する文化に興味をもち、地理学コースを選択しました。これに加えて、私自身、行動的ではないが、フィールドワークなどの授業に魅力を感じたのも選択した理由です。

先生に聞いた!

学生から見たコース

授業ではグループを作って一つの論文を書き上げたり、調査する地域に泊まって調査したりしています。主な行事は巡検(実地調査)、卒業発表会と少ないですが、フィールドワークや学部生室で、教員や先輩が気にかけてくれるので、気軽に話しかけたり、相談したりすることができ、相談しやすいため、教員・先輩・後輩関係なく距離が近いです。

教育学コース

先生に聞いた!

教育学コースとは

教育学は学ぶ、教える、成長するといふ営みを幅広く対象としている学問です。高校生にとっては、日々の身近な営みであるがゆえに、若干イメージしづらい学問かもしれません。また、「教育学」は教師になる人のためのものだと思う方もいらっしゃいますが、そうとは限りません。学んで教える、成長することは学校に限った話ではありませんし、普段の生活のなかで人とかかわる中にも、そうした営みが埋め込まれています。

学校はもろもろのこと、家庭や地域など、ありとあらゆる場所に、教育という営みは存在しています。普段の生活のなかで教育という営みがどのように展開されているのか、少しでも興味や疑問を抱いた方には、ぜひ教育学を学んでみたいと思います。

先生に聞いた!

私のオススメの人はマリア・モンテッソーリという幼児教育者です。彼女は経験に基づいた学びを重要視し、使いながら質量や数量の感覚を養えるような教具(教材)を開発しました。大人は子どもの知的好奇心が自発的に現われるよう手助けするべきだという彼女の理論は、学校や家庭など全ての教育に通じる考え方だと思います。

卒論

- ▼公立幼稚園における預かり保育の位置づけに関する考察
- ▼「がんばる力」を形成する保育者の働きかけ-幼児期の達成行動を考察して-
- ▼子どもの「関係の貧困」と教員の役割

私は、新しい教育方法やカリキュラムが学校現場のなかで定着・普及していくプロセスや要因について研究しています。例えば、「総合的な学習の時間」が導入された当初、その内容の構成や教科との関連性などについて、様々な試行錯誤がなされていました。そうした学校現場における「実践化」に伴う課題をどのように解決していくことができるのかという点に関心を寄せています。「総合的な学習の時間」は、私が大学院に進学した二〇〇二年度から、小・中学校で全面実施となりました。当時、大阪府下の小学校での実践に触れる中で、学校現場において教師が新しい教育方法やカリキュラムを生み出す営みに興味をもつようになり、研究を続けています。最近では、防災教育やキ

新たな教育方法が学校現場に定着していく過程とは?(島田先生)



教育学コース 島田希先生

リア教育といった新たなカリキュラムの開発が求められているなかで、管理職である学校長がどのような役割を果たしているのか、学校現場におけるフィールドワークやインタビューを実施しながら説明していくことを考えています。

先生に聞いた!

レフ・セミノヴィチ・ヴィゴツキーは「心理学のモーツァルト」と称されている人物です。近年、「人が他者とともに学ぶ」ことへの注目が高まる中で、彼が示した「発達最近接領域」という考え方は、教育学に大きな影響を与えました。他者とともに学ぶことの意味は何か…興味がある方は、ぜひヴィゴツキーの著書を手にしてもらいたと思います。

教育学の授業では、大阪市内にある小学校の様子を観察したり、グループを作って学生や先生に対して授業形式で授業を行ったりしています。教室行事は多く、2年生向けの歓迎会、春レクリエーション、教室旅行、送別会などがあります。行事が多いため、同期の学生だけでなく教員・先輩・後輩関係なく距離がとて近いです。

先生に聞いた!

学生から見たコース

教育学の授業では、大阪市内にある小学校の様子を観察したり、グループを作って学生や先生に対して授業形式で授業を行ったりしています。教室行事は多く、2年生向けの歓迎会、春レクリエーション、教室旅行、送別会などがあります。行事が多いため、同期の学生だけでなく教員・先輩・後輩関係なく距離がとて近いです。

教育学コースにとって「流行」とは?

教育という営みは、社会の移り変わりやそれに伴うニーズの変化に影響を受けながら展開されています。学校現場における新たな「流行」として、例えば、電子黒板や書画カメラといった「ICT」を活用した授業づくりを挙げることが出来ます。ICTを活用した授業については、「テクノロジーに頼ると、教師と子どものコミュニケーションがなくなるのではないか」といった声も寄せられることがありますが、しかしながら、ICTを活用した授業では、むしろ教師と子ども、そして、子ども同士のコミュニケーションを重視し、それをより充実させるためのツールのひとつとして、新たなテクノロジーに着目しています。授業という営みは、伝統的に「教師、子ども、教材の相互作用」によって成り立つと言われてきました。そうした、わが国の授業において大切にされてきた「不易」の部分を受け継ぎながら、そこに新たな流行をいかに取り入れていくのか、つまり、「不易流行」を目指す試みであると言えます。教育学を志す方には、国内外において蓄積されてきた教育の「不易」にふれつつ、新たな教育の「流行」を構想することができるようになってもらいたいと思います。(文・島田先生)

中国語中国文学コース



先生に聞いた!

中国語中国文学コースとは... 中国語中国文学コースは、語学・文学・文化の3分野を総合的に学ぶコースです。

松浦先生の研究内容... 高校生のとき、日本社会の嫌な面ばかりが目につき、新中国にあこがれを持っていました。

中国語中国文学コース2回生 松浦恒雄先生



松浦恒雄先生

オススメの人

艾未未 (1957-)、芸術家。2008年、四川大震災のあと、不正隠蔽のため立ち入り禁止となった地区に潜入し、犠牲となった小学生のランドセルを集めて『蛇の天井』という作品を完成させました。

オススメの人

吉川英治... 今や「三国志」と題された小説は多くありますが、それらに先駆けて日本に三国志を普及させたのは吉川英治でした。



吉川英治

卒論

- ▼史鉄生と地壇——「我與地壇」を中心として——
▼大阪で見られる多言語表示——中国語・観光客を中心として——

中国語中国文学コースにどうして「流行」とは?

中国語の「流行」には複数の意味があり、そのうちの二つに、中国の伝統演劇である京劇の役柄名があります。

国語国文学コース



先生に聞いた!

国語国文学コースとは... 国語国文学コースで学ぶことは、高校の国語を高度化したものです。

国語国文学コース3回生 戸川直樹さん



戸川直樹さん

オススメの人

僕のオススメの人は、谷崎潤一郎です。彼は近代文学作家の一人で、女性について生涯に渡って書き続けた人物です。

丹羽先生の研究内容... 私の専門は国語学、特に現代語の文法です。ごく身近な言葉の使い方が対象で、たとえば「ハ」と「ガ」のような助詞の使い方について、ドラえもんが「ぼく、ドラえもんです」と「は」のないう形を用いるのはなぜ?...

国語国文学コース教授 丹羽哲也先生



丹羽哲也先生

オススメの人

国語辞典の編纂者(へんさんしゃ)たち。代表として二人挙げます。大槻文彦(1847-1928)は日本で最初の近代的な国語辞典『言海』を刻苦精励の末に完成させました。

学生から見たコース

国語国文学コースは2回生から演習形式の講義が複数あります。演習形式は苦勞もありませんが、自分で考える機会になり、学びが深まっています。

卒論

- ▼江戸川乱歩文学における「胎内願望」について
▼形容詞接尾辞「み」について
▼百人一首における藤原定家の秀歌意識——貫之歌「人はいさ」からの考察

国語国文学コースにどうして「流行」とは?

「新語・流行語大賞」というのが毎年発表・報道されています。過去に受賞した語には、「まるきん、まるび」(一九八四年)や「おっはー」(二〇〇〇年)のように死語になったものもあれば、「セクシャルハラスメント」(一九八九年)や「アラフォー」(二〇〇八年)のように定着した言葉もあります。

英米言語文化コース

先生に聞いた!

英米言語文化コースとは
このコースでは、カナダ、オーストラリアなども含む英語圏の文学、文化、英語自体について学び、英語の運用能力を高め、将来それを活かして、英語教師、英語を使う公務員、企業人になれます。しかし、このコースが目指しているのは、グローバル社会の即戦力の養成ではなく、英米の文化の中にある基本的な問題の理解を通じて、もっと深いレベルの交流ができる人材の養成を目指しています。このコースの教育の特色は、英語を読む

でいく演習で、文学、文化、英語学、映画などの英語資料を、辞書を引きながら丁寧に読んでいきます。このプロセスは苦しいですが、それによって作品の持つ面白さがよりよく理解できます。高校生で、「学問的なことはわからないが漠然と英語好きである」とか、「英語に関心がある」という人は、ぜひ本コースに来てほしいと思います。

英米言語文化コース 3 年生 森本匡哉さん

ちよくと親方を変えようと全く別の劇になる(杉井先生)



杉井正史先生

杉井先生の研究内容
私は一語一語にこだわって研究することを大事にしています。シェイクスピアが使われている、比喩や洒落などの言葉の技巧をあまりだしていいのです。今は『尺には尺を (Measure for Measure)』というシェイクスピアの喜劇を研究しています。主人公のウィーン公爵がカトリックの修道僧に変装して自分の国に起こった事件を解決する話なのですが、そのやり方が異常に大げさで、観客に違和感を抱かせます。意地悪な見方をすると、自分が恰好でいるために余計人民を苦しめているように見えるのです。『Measure for Measure』は聖書にある言葉で、この劇は昔から道徳的なことを教えていると解釈されてきましたが、ちよくと親方を変えようと全く別の劇になるのが面白いですね。こ

の時期、英国では宗教改革が起こっており、演劇においては不道徳な修道僧が一種の類型になっていました。このような時代背景の中でシェイクスピアが、どんな思いをもって修道僧への変装を描いたのかを考えながら研究しています。

オススメの人

ウィリアム・シェイクスピア (1564-1616)
37 篇の劇と 3 冊の詩を残した。彼ほど、言葉のほとぼり、機知の才、修辞の巧みさをもって、人間の諸相を描き切った劇作家はいない。彼が作る台詞は普遍性を持ち、時間も空間も離れた現代の日本人にも通用する。彼を知るには、彼の四大悲劇から入っていくのがいい。

学生から見たコース

やはり英文学が好きなのが嬉しいですが、英文法もできます。文学も言語も、好き嫌いせずにやってみると意外と面白いですよ。先生は早くから丁寧に卒論を見てくださる方もいて、親しみやすく、面倒見がよいと思います。「英語は好きだが、苦手だから……」という人も数人は高くないのでトライしてほしいですね。

オススメの人

高校生・中学生が主な対象だというので、ほかの方とは少し違った目線……。英語が苦手な人も得意な人も、最近有名な英語講師「関正生」氏の著作物は一回、目を通しておくと面白いと思います。英語の本質が知り、英語そのものへの見方が変わり、大学でも英語をやってみたい!と思わせてくれるでしょう! オススメですよ!

卒論

- ▼オーストラリア英語の特徴と変遷
- ▼『ジャズ』における音楽と文学の融合
- ▼Comparative Studies on Raymond Carver and Haruki Murakami

コースに入ってきたきっかけ
もともと国語が好きで英語は嫌いだっただけですが、高校生のとき、先生に英文法をしっかりと教えてもらい、情報構造などが面白く感じました。それきっかけに英語を日本語と対比的に見ていく言語学がしたい、と思うようになりました。また1年生のときの授業で、それまであまり知らなかった文化面にも興味を持ったからです。

英米言語文化コースにとって「流行」とは?

「流行」という言葉は自分にとって縁遠いもののように思われる。一時的に火がついたものの多くは消えてゆき、ほんの一部の価値のあるものが残って次の世代に引き継がれていく。私の研究対象であるシェイクスピア研究にも、「〇〇主義」という新しいものが何度か流行ったが、ときが経つと、結局は堅実な実証主義が残るだけだった。しかし、シェイクスピアと言え、エリザベス朝の一番の流行の劇作家だった。当時の演劇は、清教徒の勢力の強いロンドン市当局から、不道徳あるいは低俗な娯楽として、テムズ川沿いの猥雑な地区において、かろうじて認められていた。それこそ、熊イジメや闘犬と同格のいかげわしい娯楽だった。大学も出ておらず、俳優上りの座付き劇作家は、先輩格の劇作家ロバート・グリーンから、「羽毛で飾り立てた成り上がり者の烏」と罵られていた。しかし、復讐、恋愛、滑稽、嫉妬のプロットにより大衆の支持を得て流行劇作家になり、人生の深淵を覗かせる名作を作り、幾多の同時代の劇作家の名は忘れられ、彼の名が残った。「不易」も「流行」を経ていくことを忘れてはいけないのである。(文・杉井先生)

高井先生の研究内容

私は、オーストリアのインゲボルク・パツハマンという女性作家について研究しています。彼女は第二次世界大戦が終わったころ文学活動を始めました。ドイツ人に排斥されたユダヤ系の人たちと繋がりが深く、彼らの自分たちの民族が受けてきた迫害を告発する文学に触発され、フェミニズムに目覚め、戦後の社会の混乱期なかで女性はどう生きるかをテーマにしました。学部生のとき、卒論のテーマに先生から勧められたのがパツハマンとの出会いでした。でもそのときは「面白いけど、今の私には無理だ。難しい」と思って、本棚に戻してしまいました。社会にでてフェミニズム的なものに対する感覚がわかるようになって、この作家の作品世界が理解できるようになったと思

います。パツハマンは人間関係も面白く、色々な作家との繋がりがあって、ドイツでも新しい関連書が出るなど、まだまだ研究されています。これから追いかけていきたいですね。

オススメの人

ダニエル・ケールマン (1975-) はウィーン在住のドイツ語作家。『世界の測量』(瀬川裕司訳、三修社、2008年刊)は2005年に出版されるや話題を呼び、各国で翻訳されています。18世紀から19世紀にかけて、同時代を生きていた数学者ガウスと博物学者フンボルトそれぞれの世界の測り方。これを並べて提示する発想力に脱帽です。

領域に入ってきたきっかけ

もともと決めていなかったのですが、偶然オープンキャンパスでこの領域を訪れたとき、ゆるい雰囲気がいっぱい、と領域がコース選択の視野に入りました。1年生のとき、新修外国語の授業でドイツ語を訳すのが意外と楽しく、またグリム童話を研究したいと思いい、それができる授業もあったので、このコースに決めました。

学生から見た領域

先生はお茶目で、尊敬できる方々です。先生との距離が近く、質問しやすいですよ。7月にはゾンマーフェストというソーセージを焼いたり、パンを食べたりするお祭りがあって、ドイツ語を取っている1年生も呼んで楽しいです。留学は全員ではあゆみませんが、私は1か月、私と同じ3年生では1年、ハンブルク大学に行っています。

先生に聞いた!

ドイツ語圏言語文化領域とは
基本的には1回生でドイツ語の基本文法を学び、それをベースにドイツ語圏の文化・文学そのものにアプローチしていく領域です。1回生のときは別の言語を履修していた学生が来ることもときどきあります。教員の専門は多彩で言語学、文学、どちらの教員もいますし、地域もドイツだけでなくオーストリア、スイスもカバーしています。この領域は少人数なので自分

文学作品を中心に、複合的な学びができる(高井先生)



高井絹子先生

ドイツ語圏言語文化領域 3 年生 辻明日香さん



のペースで勉強しつつ、やりたいうことには適度な助力を受けて取り組むことができます。年2回の遠足をはじめ様々な行事があり、学生は自主的に留学生とお互いの言葉を教えあうテンデムの時間を設定しているようです。文学作品を中心に、歴史や地誌など複合的な学びができるところに面白さがあると思います。

オススメの人

私がオススメしたい人は、グリム兄弟です。『グリム童話』は日本でも有名で、グリム童話そのものはもちろん、ディズニー映画などでもグリム童話をもとにした物語がたくさんあります。グリム兄弟は、各地の民話を童話集にまとめました。各国で、ずっと後の時代にも読み継がれる作品をまとめたグリム兄弟は偉大だと思います。

卒論

- ▼ドイツ・ルネサンスとアルブレヒト・デューラー — 『黙示録木版画』に至るまでの足跡 —
- ▼ドイツ語の未来形の定義について

ドイツ語圏言語文化領域にとって「流行」とは?

疾風怒涛時代の次が古典主義で、その次がロマン主義。そのあとが写実主義だったわけ……。学生時代、文学史が苦手でした。数ある文学作品のなかから研究者が数篇を選び出し、「主義」でまとめたんだから漏れもあれば無理もある、などと生意気なことを考え敬遠していました。しかし教える側になって勉強してみるとこれが意外と面白い。数百年のスパンで見ると、時代の写し絵のような作品はたしかにあります。主義も一種の「流行」みたいなものかと思いついたり、さらに文学は、例えばユングのタイプ論がいつころの「思考」「感情」「感覚」「直感」の比重の異なる「内向的」な人間と「外向的」な人間による叙述のあいだを時計の振り子のように揺れ動いているのではないかと思うようになりました。あるものが幅を利かせると、やがて飽きかきで別のものがはしくなる。あるいは反発したくなる、そういう人間の心理は文学史からも透けて見えてきます。(文・高井先生)

ドイツ語圏言語文化領域

ドイツ語圏言語文化コース

言語応用コース

先生に聞いた!

英語、日本語、中国語を中心に、言葉にかかわる不思議を解明するコースです。日本語を研究する場合でも、英語や中国語といった他の言語と比較することによって新たな発見があるかもしれません。言葉を多面的に分析できるのがこのコースの特徴です。学べる分野も、語用論、意味論、統語論、言語教育、言語獲得、認知言語学と多岐にわたります。このコースは入り口が広く、かつ奥行きも深いので、言葉に関して興味がある人なら

田中先生の研究内容
僕は元々教師を目指して、研究者になるつもりはありませんでした。しかし、集中講義で出会った一人の先生が僕の人生を大きく変えました。日本語と英語の比較を通して見えてくる言語の普遍性に関する講義は、僕に言葉のおもしろさを実感させてくれるものでした。この先生との出会いがなければ、今ここに僕はいないと思います。僕の研究分野は大きく二つあります。一つ目は、この30年間追いついていない英語の時制論です。どうして時制の一致が起こるのかなんてことを真面目に考えています。二つ目は、日常にあふれている言語表現の語用論的研究です。我々の日々の会話、雑誌広告、テレビCMなどで使われている身近な表現を研究対象

言語化されたメッセージをどうやって理解するのか
村上太一さん



言語応用コース教授
田中一彦先生

オススメの人

レナート・デクラーク (1949~)
ベルギー人ながら英語に対して英語母語話者に優る鋭い洞察力を持ち、豊富なデータと透徹した分析力を武器に英語の本質をえぐり出す類い希なる英文法学者。残念ながら、現在は研究生活から退いているが、彼の代表的著作の一つである英文法書『現代英文法総論』は日本語でも読むことができる。

オススメの人

チョムスキーは、母語の言語体系を短期間で習得できるのは、後天的経験に依拠しない「普遍文法」が生得的に備わっているからであるという「生成文法理論」という仮説を唱えた人物です。母語の言語習得能力は生得的なのか後天的なのか、言語応用コースに入って考えてみませんか?

卒論

- ▼日本語における“fingered speech”についての考察—LINEでの会話を中心に—
- ▼日英の役割語比較—『ハリー・ポッターと賢者の石』を題材として—
- ▼コメのネーミングに関する一考察

言語応用コースにどうやって「流行」とは?

「付度(そんたく) 相手の気持ち」を推しはかること。この言葉が、今世間を賑わせている。年末の流行語大賞を取る勢いである。国会での「付度」問題はさておき、言語学の世界でも「付度」は重要なキーワードである。我々の日常のコミュニケーションにおいて、話し手は伝えたいメッセージをすべて言語化しているわけではない。話し手が、自分が言いたいことを聞き手に効果的に伝えたいのなら、そのメッセージをすべて言語化して伝えるのが一番有効である。しかし、我々のコミュニケーションはそう単純ではない。例えば、書店で「万引きは犯罪です」という張り紙を見かける。お店側の意図を効果的に相手に伝えたいのであれば、「万引きはするな」と張り紙をした方が効果的である。しかしながら、我々のコミュニケーションにおいては情報伝達の効率性よりも、「相手への配慮」が重視される。たとえ情報伝達の効率性を犠牲にしても、お客さんの気持ちに「付度」し、お客さんを犯罪者予備軍扱いする表現は避けられるのである。(文・田中先生)

フランス語圏言語文化領域

先生に聞いた!

フランス語圏言語文化領域の学びは、フランス語という一つの幹から、言語学・文学・文化・歴史・社会・言語学習・教育など、いろいろな学問分野の枝葉が出ている、というイメージです。幹が太くなるほど枝葉も茂る、ということですね。フランス語圏の言語学・文学はもちろんです。ベルギー、モロッコ、カリブ海、ニューカレドニアなど世界中にひろがるフランス語圏のものであれば、哲学、歴史、社会、教育など他コー

福島の先生の研究内容
コミュニケーションにかかわることを研究しています。最初は文法について、特に冠詞の研究をしていました。コミュニケーションの研究を始めたきっかけは二つあって、一つ目は、冠詞も聞き手のかわりに応じて使い分けるものであったこと。二つ目は、「文化とコミュニケーション」という授業の初代担当者になったときに、「コミュニケーション」について深く考えたことです。以前は「ことばは、話し手のもので、現在では、話し手も聞き手のかわりに応じて使い分けるものであったこと。二つ目は、「文化とコミュニケーション」という授業の初代担当者になったときに、「コミュニケーション」について深く考えたこと

ことばは、聞き手とともにくっついていくもの
南智博さん



オススメの人

僕のオススメは Christopher Nobes という会計学者です。文学部がなぜ会計? と思いませんか。実は「会計」は国ごとの歴史や文化、社会が色濃く反映されたビジネス界の「ことば」なんです! 彼はこうした切り口で複雑に入り組んだ国際経済に鋭いメスを入れています。皆さんも「語学×会計学」という視点でフランス社会を覗いてみませんか?

卒論

- ▼ボーカロイドはフランス語教育の夢を見るか? —フランス語版 VOCALOID「ALYS」と3DCGソフト「MikuMikuDance」のフランス語学習への応用—
- ▼シャルル5世による戸別税廃止の意図

フランス語圏言語文化領域にどうやって「流行」とは?

「流行」は「流行」(流行)という仏語が日本でよく聞かれるほど、フランスと流行は切り離せないが、「研究」となると、柔軟な見方が必要だ。「フランスにおけるファッションの流行」というテーマはもちろんだが、先輩たちの卒業論文にあって、多方面から考えてみよう。例えば、社会なら「移民問題をめぐる言説にみる流行」、文学なら「バルザックの小説にみる19世紀パリのお洒落」。言語学なら「若者ことばの流行と衰退に関する仏日比較」。歴史なら「中世ゴシック建築におけるモード」、文化なら「ファッション誌とInstagramの言説分析」、言語学習/言語教育なら「グループワークにおける同一話題の継続と遷移」などなど。さらに、学びの対象は、フランス共和国にとどまらず、カナダ、ベルギー、スイス、ハイチ、北・西アフリカ諸国など、世界中のフランス語使用地域(フランス語圏)の社会、文学、言語、歴史、文化にもおおよそこの領域の多様な可能性がわかりただけだよ。(文・福島先生)

フランス語圏言語文化領域 教授
福島祥行先生



オススメの人

作家 Romain GARY (ロマン・ガリ 1914-1980)。戦時中は英雄、戦後は外交官。ジーン・セバグの元夫にして、一人一回きりのゴンクール賞を、エミール・アジャールという別名でふたたび受賞、そのことを拳銃自殺後の遺書で明かした。硬直した正義への疑問を描きつけた彼の小説は、つねに愛ゆえの不機嫌に満ちている。今年『ペルーの鳥』(水声社)、『夜明けの約束』(共和国)とたてつづけに翻訳が出た。ぜひ一読されたい。

学生から見た領域

この領域の学生は、各々がいろんな興味を持っていて、多様性があります。それだから、個性が強い人が多いように感じます。毎年7月には「パリ祭」という行事があったり、学生自作の料理を持ち寄りたり、出し物や衣装をしたりします。領域の学生だけでなく、フランス語履修者や留学生も集まる、楽しいイベントです。

学生から見たコース

教授ごとに言語学や言語習得などある程度違う角度から言語に取り組んでいるため、興味のある分野を見つけやすいです。ホワイトボードはチョコレットに含まれるのか? といった日常的なことを言語学的アプローチで授業をしてくださる先生もいます。コース生や先生方もかなり仲がいいです。言語に興味がある方には是非来てほしいです。

コースに入ってきたきっかけ

1回生の頃からやりたい卒業テーマがあり、それをできそうなコースが教育学か言語応用でした。しかし高校生のときから英語が好きで英語の教師志望というところもあり、一番優先したかったのが英語という言語だったので、言語なら何でも融通がきくこのコースに進みました。

アジアカ都市文化学専攻

「アジアカ都市文化学専攻」とは、このコースでは、「アジア」「文化」「都市」のキーワードをもち、領域横断的に複合領域的に、既成の枠にとらわれない自由で創造的な研究を行っています。学問ジャンルとしては、「文化人類学」的なものをイメージしてもらえると、一番近いのかなと思います。文化や社会、生活様式やものの考え方、言語や文学、

先生に聞いた！

堀先生の研究内容
「境界」の文学、文学の境界」というテーマを設定してやっています。一国文学史観を越えて、他国の人々と共感やリアリティを共有できる「普遍」的な日本の文学史や文化史って作れないものだろうか、というのが問題意識の始まりでした。個々の社会から見落とされがちな「境界者」の存在に光をあてる、いままで見えていなかった歴史が鮮やかに浮かび上がります。それが面白くて、ちなみに、「境界」は、国家間や世紀、世代の狭間だけでなく、概念と概念、翻訳、人間の心の内側など、様々なところから見つけられることができますよ。自分のなかにもある常識と非常識の境界、そんな身近なところを疑ってみることから異文化理解とか自分を知るということに繋がってくるんじゃないか、と思っています。

オススメの人

ヨネ・ノグチ—日本語・英語の両言語で日本文化の特質を執筆して「世界的な日本詩人」として国内外で知られていた人物です。1945年の日本の敗戦後は忘却されました。なぜか。世の中には、時代の潮流や国際政治の状況、一国史観によって、埋没する存在、沈黙を強いられる事象が数多く存在します。文献や歴史を片目で眺めながら、もう片方の目では、「今」を見据え「未来」を考える、ということを意識したいですね。



アジアカ都市文化学専攻 准教授 堀まどか先生

アジアカ都市文化学専攻にとって「流行」とは？

私は、世の中の「流行」には疎い人間です。でも、「社会的ブーム」お金になりそう！これこそが時代の最先端だ！なんて思えるものを今あわてて追いかけるよりも、それを尻目に別の道を歩む、あるいは流行に逆行して進むほうが、普遍性を持つ斬新さに近づくんじゃないかという気がしています。たとえ普遍性は持たなかったにせよ、将来の流行に繋がるかもしれない。なにこれも（盛者必衰の理）を表しますから、先のことばかりは「未知数」って大好きです。要するに、世間一般の「流行」に一喜一憂するより、自分のなかで独自の「流行」を持って密かに没頭しているほうが面白いと思います。「文学部」的にいえば、「不易流行」でしょうか。これは芭蕉が語る俳諧の理論です。新しさをとめて変化する「流行」と、時代を超越して不変なる「不易」とは、根源的に一つである、という意味だろうと私は理解しています。こういった理念や概念については、テキストの読みかたによってニュアンスの異なる解説を見いださるので、みなさんもぜひ、「不易流行」の本質を考えてみてくださいね。(文・堀先生)

資格

教職



やまだ あみ 山田 亜美さん 教育学コース 4 回生

Q. なぜ教員免許を取ろうと思ったのですか？

A. 教員になるかどうかは決め兼ねていましたが、もともと教育に興味があったので教員免許を取ろうと思いました。教職の授業はコースの学びにも繋がっており、有意義なものでした。今は高校の国語の教員を目指しています。

Q. 教育実習ではどのようなことを行ないましたか？

A. 現代文と古文の授業を合わせて十数回ほど担当させていただきました。また、ホームルーム活動や行事に参加しました。生徒だった頃とは異なる視点から教育活動を捉え直すことで、新たな気づきを得ることができました。

学芸員



ふじおか たくや 藤岡 琢矢さん 日本史コース 4 回生

Q. なぜ学芸員資格を取ろうと思ったのですか？

A. 現在日本史コースに所属している歴史学の研究をしています。今後も歴史学に携われる職業に就きたいと考えていたところ、学芸員として専門的な研究を続けられる道もあると思い、学芸員資格を取得しました。

Q. 実習ではどのようなことを行ないましたか？

A. 博物館実習Ⅰでは、自分たちで内容・構成を考え、学内で展示を行ないました。博物館実習Ⅱでは、実際に博物館に行き、学芸員の仕事を体験できました。実践的な実習で学芸員に必要な知識が身についたと思います。

副専攻とは？

副専攻とは、全学共通のプログラムで、修了することにより、所属学部の学士号（文学部なら「文学」）以外の専門を修めたと認定されるコースです。現在、外国語に特化したグローバルコミュニケーション（GC）と地域社会の問題に取り組むコミュニティ再生（CR）副専攻があります。

表現文化コース

先生に聞いた！

表現文化コースでは、表現にかかわる様々な領域や素材を考察の対象として、学問的見地からとことん追究することができ、ます。役者になるための発声法やマンガの作画法といった実技訓練を行なうコースではありませんが、実技について研究の視点から見るということはあります。また、地域の人たちと連携してキャンドルナイトを行なうといった、アーツマネジメントの授業もあります。スタツフでカバーできない分野については、

野末先生の研究内容

私はおもにウォルター・ペイターという文学者について研究しています。それには、彼の生きた19世紀後半の英国の文化だけではなく、ギリシャ以来の西洋文化も視野に入れなくてはなりません。壮大な話ですね。彼を初めて知ったのは、予備校の夏季講習の英語で使われたテキストでした。風変わりな魅力は感じましたが、そのときは運命的な出会いというようなものではありませんでした（いま振り返ると、そうだったと思えるのですが）。それから大学での英語の授業で、彼の『ルネサンス』を取上げたものがあり、ゆっくりに時間をかけて読んでいくうちに、その英文に感銘を受けるようになりまして。いま読んでこの思想と表現は凄いなと思うところ、謎めいていてよくわ

学問的見地からとことん追究する(野末先生)

表現文化コース3回生 尾上葉月さん



オススメの人

スティーヴン・スピルバーグ
表現文化コースの専門授業で彼が監督した『未知との遭遇』の作品分析をしました。ただ単純に宇宙人との出会いが描かれているだけでなく、工夫された演出や撮影方法によって、「映画との出会いは理解できないものだ」ということをこの映像で示唆しているのでは？というところを学び、そのような点がとても面白く感じました。

オススメの人

柳家喬太郎 (落語家)

ここ数十年、大きな関心を抱き、愛好している。人気者だが、落語ファンは別として、関西ではあまり知られていないはず。端正な古典、破天荒な新作、ともに聴かせる。狂気とチャーム(カワユサ)をあわせもつ。2012年夏、トリイ・ホール(難波)で聴いた「孫、帰る」には、心底、震えた。

表現文化コース教授 野末紀之先生



コースに入ってきたきコかけ
中学生的のときにメディア関連の職業体験に行き、興味を持つたのが初めのきっかけです。その後メディアも学問になると知り、メディアのことを学びながら社会学だろーと思っていました。市大のオープンキャンパスで表現文化コースの学びの内容を聞いて、メディアとしての表現のほうに興味を持ち、このコースに進みました。

学生から見たコース

漫画や音楽など様々な表現に触れる授業を通して、自分で考える力を身につけることができ、ます。そのおかげで、表現文化コースの行事でアートに触れる旅行に行った際に、芸術の面白さを感じました。考える・見るといったことだけでなく、個人的な先生や学生とかがわかることでもまた新たな学びにつながっています。

表現文化コースにとって「流行」とは？

「流行」は表現文化コースとの親和性が高い。卒業で取上げられるの、たいして昨今はやりのもの。ただ、そのことが可能となった歴史の経緯や理論のいくつかは踏まえておいてほしい。表現文化コース的には、まず作品を挙げたい。ひとつはボードレールのエッセイ「現代生活の画家」。ある画家が都市の群集を機材として、はりの衣装や装身具に目を凝らしつつ、冷たく熱狂しながら作品を制作するさまがスケッチされている。同時期のソラの短篇「引き立て役」も面白い。街を闊歩する女性のために、お伴の不美人を「引き立て役」として用意する商売をめぐる滑稽かつ陰鬱な話。これほど頻りに「ブス」という不穏な(?)文字が出てくる作品は他にない。どちらの作も、「流行」が都市の文化(自己展示、他者からの凝視、商品社会)と不可分であることを示唆する。これに刺戟されたら、「流行」に関する理論的書物に手を延ばせばよい。上記二作品は『ボードレール批評 2』(ちくま学芸文庫)と『ソラ 初期名作集』(藤原書店)で読める。(文・野末先生)

卒論

- ▼レオ・レオニの絵本作品における個性表現
- ▼『千と千尋の神隠し』における「水」の役割
- ▼日中テレビCMの変遷～携帯電話のCMから見たもの～

教員紹介

NAME 氏名 職階
研究内容
『主な著書』(発行所 発行年)
『論文』(『収録誌』 発行所 発行年)

哲学歴史学科 / 哲学歴史学専攻

哲学コース / 哲学専修

Takashi NAKAHARA 仲原 孝 教授
宗教学。宗教哲学。カント・ニーチェ・ハイデガーを中心とする近現代ドイツ哲学の研究。
『ハイデガーの根本洞察』(昭和堂 2008)

Tomohiro TAKANASHI 高梨 友宏 教授
ドイツ近現代美学、近代日本の芸術論。
『西洋近現代美学の一概観』(加國尚志・平尾昌弘 編著『哲学の眺望』見洋書房 2009)

Takashi TSUCHIYA 土屋 貴志 准教授
倫理学、医療倫理学、人権問題研究。
共著『『医学的無益性』の生命倫理』(山代印刷出版部 2016)

Takeshi SAKON 佐金 武 講師
英語圏のいわゆる分析哲学の文脈において、現代時間論および関連する形而上学の諸問題を中心に研究。
『時間にとって十全なこの世界——現在主義の哲学とその可能性』(勁草書房 2015)

日本史コース / 日本史学専修

Takashi TSUKADA 塚田 孝 教授
日本近世史。特に近世身分制の研究、大坂の都市社会史や和泉をフィールドとした地域史。
『都市社会史の視点と構想』(清文堂出版 2015)
『大坂の非人—乞食・四天王寺・転びキリタン』(ちくま新書 2013)

Hiroshi NIKI 仁木 宏 教授
日本中世史。都市史、地域社会史。現在はとりわけ、室町〜織田・豊臣期の、全国の港町、城下町に興味をもって研究している。
『京都の都市共同体と権力』(思文閣出版 2010)
共編著『信長の城下町』(高志書院 2008)

Naofumi KISHIMOTO 岸本 直文 教授
日本考古学。古墳時代の研究。現在は、古墳時代から飛鳥時代への社会変容について、特に 7 世紀中頃の古墳改新とそれによる古墳の築造規制の実態から追究している。
編著『史跡で読む日本史 2 古墳の時代』(吉川弘文館 2010)

Ashita SAGA 佐賀 朝 教授
日本近現代史、特に近代大阪の都市社会史・地域社会史、近年は近世の遊廓社会史も。
『近代大阪の都市社会構造』(日本経済評論社 2007)

Toru IWASHITA 磐下 徹 准教授
郡司制度の研究、古記録の註釈、大阪の古代史。
『日本古代の郡司と天皇』(吉川弘文館 2016)

世界史コース / 東洋史学専修

Shigeki HIRATA 平田 茂樹 教授
中国の近世史。科挙・官僚制を中心とする政治構造の歴史。
『宋代政治構造研究』(汲古書院 2012)
『宋代政治構造研究』(上海古籍出版社 2010)

Chikayoshi NOMURA 野村 親義 准教授
近現代インド史。
『Selling steel in the 1920s: TISCO in a period of transition』(The Indian Economic and Social History Review, Delhi, vol.48-1, 2011)

Masayuki UENO 上野 雅由樹 准教授
西アジア近世・近代史、オスマン帝国史。
共著『世界史/いま、ここから』(山川出版社 2017)

世界史コース / 西洋史学専修

Syunji OGURO 大黒 俊二 教授
中世・ルネサンス期のイタリアおよび地中海世界の社会史、経済史。
『声と文字』(岩波書店 2010)
『嘘と貪欲——西欧中世の商業・商人観』(名古屋大学出版会 2006)

Masafumi KITAMURA 北村 昌史 教授
近現代ヨーロッパ、特にドイツの社会史。
『ドイツ統一と第二帝国』(小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦 編著『大学で学ぶ西洋史(近現代)』ミネルヴァ書房 2011)

Hisatsugu KUSABU 草生 久嗣 准教授
ビザンツ史、ヨーロッパ中世史、宗教問題史、異端学。
共著『北西ユーラシアの歴史空間——前近代ロシアと周辺世界』(北海道大学出版会 2016)

人間行動学科 / 人間行動学専攻

社会学コース / 社会学専修

Yuzo SHINDO 進藤 雄三 教授
理論社会学・医療社会学・家族社会学を専攻。現在の主な研究テーマは現代社会理論・医療専門職論・死の社会学研究。
共著『社会学』(医学書院 2012)

Saeko ISHITA 石田 佐恵子 教授
メディア文化研究、映像社会学。
共編著『ポピュラー文化ミュージアム』(ミネルヴァ書房 2013)
共編著『ポスト韓流のメディア社会学』(ミネルヴァ書房 2007)

Noriko IJICHI 伊地知 紀子 教授
朝鮮地域研究、文化人類学。
IJICHI, Noriko, Atsufumi KATO, and Ryoko SAKURADA eds, *Rethinking Representations of Asian Women: Changes, Continuity, and Everyday Life*. New York: Palgrave, 2015.
『消されたマッコリ——朝鮮・家醸酒文化を今に受け継ぐ』(社会評論社 2015)
『日本人学者が見た清州人の生——生活世界の創造と実践』(清州大学校歌謡文化研究所 2013 韓国語)

Eiji KAWANO 川野 英二 教授
社会政策の社会学・比較社会学。
セルジュ・ボーガム『貧困の基本形態——社会的紐帯の社会学』(中條健志と共訳) 新泉社 2016
『フランス大都市の配置構造と「郊外」の位置: リオン市郊外と中心市街地の変容』(『人文研究』大阪大学 2017)
『フランス郊外貧困地区とスティグマ化』(『貧困研究』明石書店, 2016)

Hideaki SASAJIMA 笹島 秀晃 講師
都市社会学、文化社会学。
『ニューヨーク市 SoHo 地区における芸術家街を契機としたジェントリフィケーション: 1965 ~ 1971 年における画廊の集積過程に着目して』(『社会学評論』67(1), 2016)

Hideaki SASAJIMA 笹島 秀晃 講師
都市社会学、文化社会学。
『ニューヨーク市 SoHo 地区における芸術家街を契機としたジェントリフィケーション: 1965 ~ 1971 年における画廊の集積過程に着目して』(『社会学評論』67(1), 2016)

心理学コース / 心理学専修

Tomoko IKEGAMI 池上 知子 教授
社会心理学: 対人認知、偏見とステレオタイプ、社会的アイデンティティと社会システムの関係。
『格差と序列の心理学——平等主義のパラドクス——』(ミネルヴァ書房 2012)

Hiroshi YAMA 山 祐嗣 教授
認知心理学: 推論、思考の潜在性・顕在性、比較文化研究。
『日本人は論理的に考えることが本当に苦手なのか』(新曜社 2015)

Koichi KAWABE 川邊 光一 准教授
生理心理学: 高次認知機能(特に学習・記憶)の脳内機構。精神疾患動物モデルに関する行動薬理学的研究。
『Effects of chronic forced-swim stress on behavioral properties in rats with neonatal repeated MK-801 treatment』(Pharmacology, Biochemistry and Behavior, in press)

教育学コース / 教育学専修

Daisuke SAEKI 佐伯 大輔 准教授
行動分析学: 判断、意思決定、選択、推論。
『価値割引の心理学——動物行動から経済現象まで』(昭和堂 2011)

Atsushi KASHIWAGI 柏木 敦 教授
日本教育史、初等教育制度政策史。
『日本近代就学慣行成立史研究』(学文社 2012)

Haruo SOEDA 添田 晴雄 准教授
比較教育文化史、教育・学習における話すことと聞くことの研究、特別活動、いじめ問題の国際比較。
共訳『進歩主義教育の終焉——イングランドの教師はいかに授業づくりの自由を失ったか——』(知泉書館 2013)
共編『世界のいじめ』(金子書房 1998)

Hisayoshi MORI 森 久佳 准教授
教育学(教育方法論、カリキュラム論、教師論)。
共編『こどもと関わる』(アーツ・ソリューションズ 2013)
共著『教師の仕事と求められる力量』(あいら出版 2011)

Nozomi SHIMADA 島田 希 准教授
教育方法学、授業研究。
『学校における実践研究の発展要因の構造に関するモデルの開発——専門的な学習共同体』の発展に関する知見を参照して——』(『日本教育工学会論文誌』日本教育工学会, 39(3), 2015)

Shigeaki OBA 大場 茂明 教授
都市政策とまちづくり、ドイツ地域研究。
『再都市化の進行にともなう地区居住施策の展開——ハンブルク大都市圏を事例として——』(『日本都市学会年報』, 日本都市学会, Vol.53 2017)

地理学コース / 地理学専修

Shigeaki OBA 大場 茂明 教授
都市政策とまちづくり、ドイツ地域研究。
『再都市化の進行にともなう地区居住施策の展開——ハンブルク大都市圏を事例として——』(『日本都市学会年報』, 日本都市学会, Vol.53 2017)

Toshio MIZUUCHI 水内 俊雄 教授(兼任)
近代都市の社会問題・住宅問題の歴史的研究や、日本・東アジア、欧米の脱ホームレス支援や都市再生に関わる社会地理学的研究。
編著『都市の包容力』(法律文化社 2017)
共著『モダン都市の系譜』(ナカニシヤ出版 2008)
※(兼任) 大阪市立大学都市研究プラザ教授

Takashi YAMAZAKI 山崎 孝史 教授
グローバルな政治経済の変動とローカルな政治・社会運動に関する地理学的研究、沖繩研究。
『政治・空間・場所——政治の地理学』にむけて[改訂版]』(ナカニシヤ出版 2013)

Ryoji SODA 祖田 亮次 教授
人文地理学、人口移動、資源利用・管理、災害文化、東南アジア地域研究。
People on the move: rural-urban interactions in Sarawak. (Kyoto University Press and Trans Pacific Press, 2007)

Yoshinari KIMURA 木村 義成 准教授
地理情報システム、保健医療分野における GIS の応用研究。
『Geodemographics profiling of influenza A and B virus infections in community neighborhoods in Japan』(Yoshinari Kimura, et al, *BMC Infectious Diseases*, 11:36, 2011)

言語文化学科 / 言語文化学専攻

国語国文学コース / 国語国文学専修

Tetsuya NIWA 丹羽 哲也 教授
日本語の意味と文法。普段使っている言葉がどのような仕組みでできているか、それが過去から現代までいかに変化してきたかという研究。
『日本語の題目文』(和泉書院 2006)

Naoki KOBAYASHI 小林 直樹 教授
中世の説話伝承文学。とりわけ現在では、通世僧の文学世界を中心に研究を進めている。
『中世説話集とその基盤』(和泉書院 2004)

Hiroaki KUBORI 久堀 裕朗 教授
近世文学、おもに人形浄瑠璃史の研究。
共編著『上方文化講座 義経千本桜』(和泉書院 2013)
共編著『上方文化講座 菅原伝授手習鑑』(和泉書院 2009)

Kumiko OKUNO 奥野 久美子 准教授
芥川龍之介など大正時代の小説。特に大衆演芸からの影響について。
『芥川作品の方法』(和泉書院 2009)

Mayuko YAMAMOTO 山本 真由子 講師
中古文学、おもに漢文学・和歌の研究。
『三条左大臣殿前裁歌合について——「進水虫の宴」の趣向——』(『文学史研究』57号 2017)

中国語中国文学コース / 中国語中国文学専修

Tsuneo MATSUURA 松浦 恒雄 教授
19 世紀末以降の中国近現代文学、および演劇。
共編『帝国主義と文学』(研文出版 2010)

Mari IWAMOTO 岩本 真理 教授
近世から現代にいたる中国の語彙・語法の変遷。唐話資料にみる近世中国語の日本における定着と変容。
『南山俗語考』(中国書店 2017)

Shinmin CHO 張 新民 教授
現代中国文化論及び映画研究。
共著『中国映画のみかた』(大修館書店 2010)

Koji OIWAMOTO 大岩本 幸次 准教授
中国語音韻史、中国古代字書史。
『皇極經世解詠歌』(『聲音韻譜』校異記) (臨川書局 2011)
『金代字書の研究』(東北大学出版会 2007)

英米言語文化コース / 英米言語文学専修

Masashi SUGII 杉井 正史 教授
英国エリザベス朝演劇、特にシェイクスピアの劇。
共著『シェイクスピア—古典文学と対話する劇作家』(松籟社 2014)

Takanobu TANAKA 田中 孝信 教授
文学テキストと大衆メディアとの関係の研究。
Dickens in Japan: Bicentenary Essays (Osaka Kyokyo Tocho, 2013, coauthorship)

Ian RICHARDS イアン・リチャーズ 准教授
New Zealand literature.
『Do-It-Yourself History: A commentary on Maurice Shadbolt's "Ben's Land"』(Lonely Arts Publishing, Auckland 2011)

Tetsuo KOGA 古賀 哲男 准教授
アメリカ文学(黒人詩研究)。
『大衆詩における独創とはなにか——『豹と鞭』におけるヒューズの編集意識——』(『黒人研究』82 2013)

Junichi TOYOTA 豊田 純一 准教授
認知科学、歴史言語学、文化人類学。
Vision beyond visual perception. (Newcastle upon Tyne, Cambridge Scholars Publishing, 2017)

ドイツ語フランス語圏言語文化コース / ドイツ語フランス語圏言語文化学専修

ドイツ語圏言語文化領域

Michio KAMITAKE 神竹 道士 教授
言語学、ドイツ語学、ドイツ語文法理論。特に 16 世紀以降の標準ドイツ語形成過程を研究。
教科書(単著)『ドイツ文法ベーシック 3 改訂版』(朝日出版社 2016)
教科書(共著)『楽しいドイツ語の旅—ベア練習で学ぶ初級ドイツ語—』(朝日出版社 2017)

Kinoku TAKAI 高井 絹子 准教授
19 世紀末以降のドイツ語圏文学・文化。
『インゲボルク・パッハマンとウィーン——観念的な地図の書き換えをめぐる——』(『人文研究』大阪市立大学 2014)

Kenichi HASEGAWA 長谷川 健一 講師
18・19 世紀のドイツ語圏の文化・文学。
共著『ドナウ河——流域の文学と文化——』(見洋書房 2011)

フランス語圏言語文化領域

Yoshiyuki FUKUSHIMA 福島 祥行 教授
ひとほどのように通じあうのかの研究。相互行為分析、コミュニケーション論、言語学習(アクティヴラーニング、ポートフォリオ)、言語学、都市とアート、コミュニティ開発、フランス語圏学。
『グループワークにおけるふりかえりの生成——フランス語初級クラスの相互行為分析から——』(『Revue Japonaise de Didactique du Français』11, vol.1-2, 日本フランス語教育学会 2016)

Yuki SHIRATA 白田 由樹 准教授
19 世紀末フランス・ベルギーの文化、ジェンダー表象の研究。
『サラ・ベルナル——メディアと虚構のミューズ——』(大阪公立大学共同出版会 2009)

Yoko HARANO 原野 葉子 准教授
20 世紀フランス文学・文化。戦争、実験文学、空想科学。
編訳『夢がもしもいなくなった技術』(ボリス・ヴィアック 著 水声社 2014)
共訳『文体練習』(レーモン・クノー 著 水声社 2012)

言語応用コース / 言語応用学専修

Shigeki SEKI 関 茂樹 教授
統語論、語用論。英語などの言語に見られる形式と意味との対応関係の機能的観点からの研究。
『英語指定文の構造と意味』(開拓社 2011)

Yukio IKARI 井狩 幸男 教授
母語獲得メカニズムの解明に向けた神経心理言語学と第 2 言語習得への応用。
『バイリンガリズム入門』(山本雅代 編著 井狩幸男・田浦秀幸・難波和彦 著 大修館書店 2014)

Masato YAMAZAKI 山崎 雅人 教授
言語基礎論、言語比較論。言葉の仕組みをさまざまな面から論じる。
『満洲語文語の可能表現に見る文文化の展開』(『言語情報学研究』第 13 号 2017)

Kazuhiko TANAKA 田中 一彦 教授
英語における特殊な過去完了形の用法について、will はテンスかモダリティか。
『過去完了形の使用を保証するオリエンテーション・タイム』(『言語情報学研究』第 8 号 2012)

表現文化コース / 表現文化学専修

Masako MIKAMI 三上 雅子 教授
現代演劇研究。
『恋する男と行動する女——宝塚歌劇における男性像』(『表現文化』No.6 大阪市立大学大学院文学研究科表現文化学教室 2011)

Noriyuki NOZUE 野末 紀之 教授
19 世紀末イギリスの文学および文化思想。
『「ジョルジョーネ派」の批評言語』(『ペイター』ルネサンスの美学』論創社 2012)

Akihiro ODANAKA 小田中 章浩 教授
フランス演劇、比較演劇、分野横断的な表象(た)と虚構としての記憶喪失の研究。
『モダンドラマの冒険』(和泉書院 2014)
『フィクションの中の記憶喪失』(世界思想社 2013)

Yoko TAKASHIMA 高島 葉子 准教授
民間話話・民間伝承の比較文化的研究。
『Successful Marriages between Kamuy and Humans in Ainu Folktales: A Comparison with Animal-Human Marriages in Northern Peoples' Tales』(Comparative Culture, No.124, 2016)

Takeshi EBINE 海老根 剛 准教授
表象文化論。
『「映画都市」としてのマドリッド——アルモドバルの初期作品における都市表象をめぐる——』(『表現文化』No.9 大阪市立大学大学院文学研究科表現文化学教室 2015)

アジア都市文化学専攻

Mitsuhiro NOZAKI 野崎 充彦 教授
韓国伝統文化論(思想・宗教・文学)、映像文化。
訳書『韓国映画史』(明石書店 2016)
『洪吉童伝』(平凡社 東洋文庫 2010)
共著『韓国の古典小説』(ベリかん社 2008)

Hiroshi TAWADA 多和田 裕司 教授
アジア諸地域の文化人類学的研究、現代社会におけるイスラーム。
共編著『イスラーム社会における世俗化、世俗主義、政教関係』(上智大学アジア文化研究所 2013)
『マレー・イスラームの人類学』(ナカニシヤ出版 2005)

Mayumi SUGAWARA 菅原 真弓 教授
日本近世近代絵画史、文化資源学。特に複製媒体と社会背景に関する研究。
『浮世絵版画の十九世紀—風景の時間、歴史の空間』(ブリック、2009)
『評伝月岡芳年 幕末明治の狭間で』(中央公論美術出版、2017 年近刊)

Satoshi MASUDA 増田 聡 准教授
ポピュラー音楽研究、都市大衆文化研究、文化所有論(著作権、作者論など)。
『聴衆をつくる——音楽批評の解体文法』(青土社 2006)

Madoka HORI 堀 まどか 准教授
国際日本研究。比較文化。境界者の文学から、文学の境界をさぐる。
共著『バイリンガルな日本文学——多言語多文化のあいだ』(三元社 2013)
主著『二重国籍』詩人 野口米次郎』(名古屋大学出版会 2012)

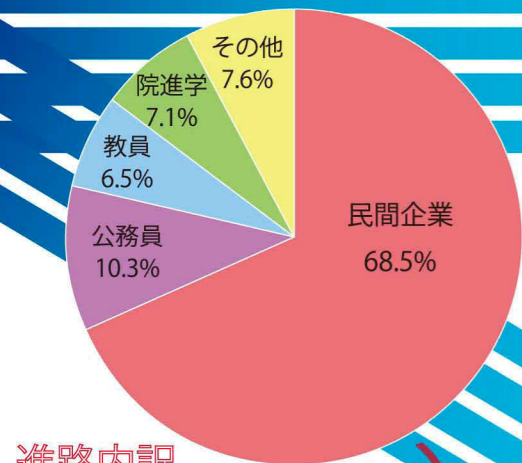
Keita AMANO 天野 景太 准教授
観光学(都市観光論・観光メディア研究・ニューツーリズム論)、都市社会学論。
共著『観光まちづくり』再考』(古今書院 2016)
『東京の社会変動』(中央大学出版部 2015)

—特任教員—

- 表現文化学専修
Kimi EMURA 江村 公 特任講師
- ドイツ語フランス語圏言語文化学専修
Simon OERTLE ジモン・エルトル 特任講師
Laurent BAREILLE ロラン・バレイユ 特任講師
- 都市文化研究センター
Yu ISHIKAWA 石川 優 特任助教

(2017 年 8 月現在)

進路事情

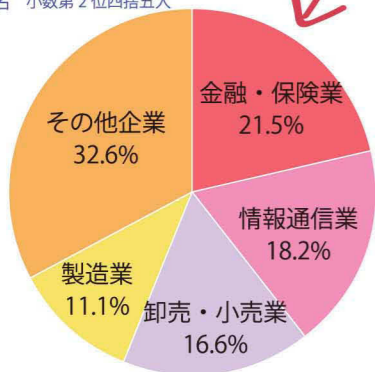


進路内訳

計 184名 小数第2位四捨五入

民間企業内訳

計 126名 小数第2位四捨五入



2016年度就職先一覧

<大学院進学>

大阪市立大学、首都大学東京、京都大学、九州大学、筑波大学

<公務員>

大阪府、奈良県、兵庫県、滋賀県、愛知県、枚方市、堺市、吹田市、奈良市、神戸市、斑鳩町、大阪労働局、造幣局、皇宮警察本部、神戸家庭裁判所

<教員>

大阪府、和歌山県、奈良県、香川県、兵庫県

<医療・福祉>

国立病院機構近畿グループ、日本年金機構、京都老人福祉協会

<運送業・郵便業>

日本貨物航空、阪神電気鉄道、JALスカイ大阪、ゼロ、山九

<卸売・小売業>

イズミヤ、ジョヴィ、トーハン、ジェイアール西日本伊勢丹、日本出版販売、フジデン、ニトリ、たち吉、ゴードー、和歌山日産自動車、京阪ザ・ストア、バル、飯田グループ、粟井機鋼、山屋、山文商事、東和エンジニアリング、メガネトップ、愛眼

<教育・学習支援業>

ケーイーシー、成学社、新教育総合研究会

<建設業>

積水化学工業、朝日エティック、鹿島建設

<金融業・保険業>

松阪農業協同組合、兵庫県信用農業協同組合連合会、三井住友銀行、損害保険ジャパン日本興亜、近畿労働金庫、紀陽銀行、阿波銀行、大同生命保険、ゆうちょ銀行、みずほフィナンシャルグループ、池田泉州銀行、京都銀行、近鉄グループホールディングス、近畿大阪銀行、三井住友海上火災保険、日本銀行、かんぽ生命保険、三菱東京UFJ銀行、新生フィナンシャル、野村證券、大和証券、住友生命保険相互会社、リソナホールディングス

<情報通信・マスコミ>

三菱総研DCS、讀賣新聞東京本社、テクニカルソフトウェア、日本放送協会、日本ビュアシステム、キューブシステム、数研出版、日本マーケティング研究所、アイテック阪急阪神、神戸新聞社、システナ、メディア・パスターズ、ディアンドアイ情報システム、富士ソフト、日立ソリューションズ・クリエイト、ニッセイコム、G&Uシステムサービス、アトラス情報サービス、ケイ・オブティコム、日本システム技術、中央コンピューター

<製造業>

富士通、島津製作所、堀場製作所、一丸印刷所、ノバルティスファーマ、中西金属工業、住友電気工業、大王製紙、呉竹、ヤッホーブルーイング、トヨタ自動車、コニシ、川崎重工業

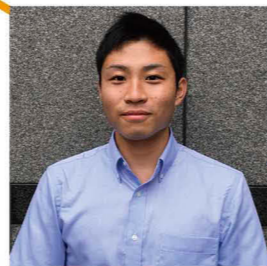
<広告代理店・学術研究専門・技術サービス業>

大広、アイレップ、アド近鉄、エン・ジャパン

教員

かわにしょう た
川西陽太さん

表現文化コース・2016年度卒業



Q.なぜ教員になろうと思ったのですか？

A. 特別なきっかけはありません。ただ日頃から自分は、多くの人たちとのかかわりのなかで育てられてきたと感じていました。そこで、今後は自分がそんなかかわりの場を提供し、誰かを照らす存在になりたいと考えたとき、教員という選択肢に辿り着きました。

Q.文学部での学びは現在のお仕事にどのように活かされていますか？

A. 「国語で何を学ぶか。」私が大切にしていることの一つです。単に教科書の内容を読み解くのではなく、そこから何を感じ、考え、人生の糧としていくか、そんな機会を用意することが国語の役割ではないかと考えています。ただ作品の表面をさらうのではなく、様々な視点から分析することで、社会や集団の価値観、感性に触れる、それらが自身の生活を豊かにする。すべて文学部で得た経験です。そんな経験を生徒たちとも共有していきたいと思っています。

大学を出てからのことなんて考えるのはまだ早い？本当にそうでしょうか。

どんな道に進んだ人が多いのか。どんなきっかけでその道に進んだのか。

社会の最前線で活躍しているOB・OGの方々の「生」の声と情報を、ほんの少しだけ早く知ることによって、新たな何かが見えてくるでしょう。



公務員

つぼもと みさき
坪本実咲さん

地理学コース・2016年度卒業

Q.なぜ公務員になろうと思ったのですか？

A. フィールドワークの際に公務員の方にお話を伺うことが多く、住民の生活を陰で支えている公務員という仕事に興味を持ったことがきっかけです。その後、就職活動を通じて、自分になじみの深い地域に貢献したいと考えようになり、公務員になりました。

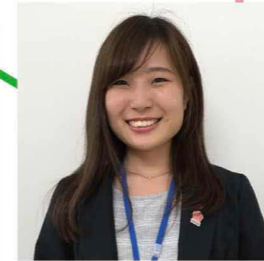
Q.文学部での学びは現在のお仕事にどのように活かされていますか？

A. 文学部では、自分の専攻以外でも興味・関心のある分野の授業を幅広く受けられたことで、物事を様々な角度から見る癖がついたことが業務のなかで活かされていると思います。私の所属する部署では住民のみならず民間企業の方ともかかわる機会が多いため、役所という立場からだけでなく、「別の視点から見るとどうなのか」を意識し、自分の目や耳で確かめ、考えることの重要性を日々実感しています。

民間企業

おかもと さつき
岡本颯季さん

言語応用コース・2016年度卒業



Q.就活について、体験談やアドバイスなどはありますか？

A. 自分のやりたいことや得意不得意を明確にして、歳の離れた大人にPRするなんてことは今までの人生で経験がなく、自分の可能性を見つめなおすいい機会でした。辛い思いもしましたが、自分の主張が面接官にきちんと伝わると嬉しいものです。息抜きを大切にしつつ、がんばってください。

Q.社会人生活と学生生活の違いは何ですか？

A. 学生の間は自分のために教育を受けていたのに対し、社会人が教育を受けるのは将来的にその会社の役に立つためで、何かを覚えてもらうのにも責任が生じるようになります。そういう意味で、学生時代よりも強くアンテナを張り巡らせて過ごすようになりました。体調管理にも気を遣うようになり、以前はいろいろ無茶もしましたが、今では毎日健康的な生活になりました。

大学院

なかで あきとも
中出明知さん

教育学コース・2015年度卒業



Q.なぜ大学院に進まれたのですか？

A. 私は卒業論文で、大西忠治という教育実践家の理論について、文献を用いて研究しました。しかし、教師になりたいと考えていたことから、学校現場での研究も行ないたいと思い進学しました。ただこれは、勉強するうちに考えた理由で、初めに大学院に興味を持ったきっかけは、先生方が「院生からは対等な研究者になる」とおっしゃっていたことからでした。

Q.大学院では何を研究されていますか？

A. 現在は、子どもが自分のクラスで受け入れられていると感じられるような居場所づくりについて勉強をしています。そして、小学校で行なう学級会が居場所づくりにつながるということを目の前で明らかにするために、小学校で学級会を観察し、担任の先生にインタビューをさせていただきながら研究をしています。

エディア ゼラマ
Hedia Zellama さん JAPAN

滞在期間：5ヶ月 留学した時期：3回生の前期
費用：1ヶ月で約8万円 出身国：フランス

① 長い間、日本語を勉強してきたので、今まで学んできたことを現地で実践したいと思いました。日本語の運用能力をより高めたいというだけでなく、昔から憧れの日本に行きたかった思いも強く、留学を決意しました。

② 英語と日本語の授業を受けています。授業がない時は、大学を出て、友達と一緒に難波や京都、奈良などを観光することもあります。そのおかげで、フランスから来た家族と友達に、日本の素晴らしさを見せてあげることができました。

③ 学びの環境として非常に適しています。なので日本に留学するのはとてもいい経験だと思います。学生は何も不安がらずに来ることができます。



#日本 #大阪市立大学
#日本ならではの写真
#お気に入りの1枚


たけな
竹谷 かれん さん UK

滞在期間：3週間 留学した時期：3回生の夏
費用：40万円

① 世界史コースということもあり、元々海外に興味があったので、いつか留学したいと思っていました。英語力を上げたいという思いもありましたが、イギリスに対する憧れがあったのでシェフィールドを選びました。

② 平日は朝からお昼まで学校で授業を受けました。6~7人のクラスで文法やスピーキングを勉強しました。放課後は友達と街で買い物したり、学校のアクティビティに参加したりしました。休日は電車やバスを使って近くの街に行き、日帰り旅行を楽しみました。

③ 留学先では言葉の壁を感じるかもしれませんが、たくさんの人と話をすれば、それだけ多くの発見があり、次第に話すことが楽しくなるはずです。



#イギリス #イギリスならではの写真
#お気に入りの1枚

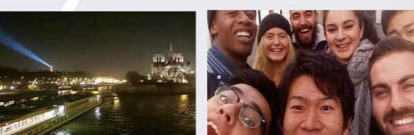
うえだ ひろき
植田 宏紀 さん FRANCE

滞在期間：6ヶ月 留学した時期：3回生の後期
費用：120万円

① 専攻していたフランス語の運用能力の向上と、今後社会人になるにあたって、より様々なことに興味を持ち、自発的に行動できるようになることを目的に、フランスへの半年間の交換留学を決意しました。

② 大学では、日本人、フランス人学生、様々な国の出身の留学生達と過ごし、自宅では言語の壁を越えるべく、現地の文法書や新聞を読んだり、日記をつけたりと日々の学習を欠かしませんでした。結果的に多くの友人に恵まれ、非常に充実した半年間を過ごすことができました。

③ 言語の壁を恐れず、積極的に色んなことに挑戦していきましょう！そこから友達の輪が広がり、現地での自分の活動の幅が一気に広がると思います。



#フランス #フランスならではの写真
#お気に入りの1枚


かわかみ ひろき
川上 裕貴 さん RUSSIA

滞在期間：1ヶ月 留学した時期：2回生の夏
費用：10万円

① 私はかねてから、ロシア留学を志望しておりました。インターネットや書籍からの情報だけでなく、直接この目でロシアという国を見たいと思っていたからです。授業中に講師に勧められたことで、留学を決意しました。

② 語学学校で1ヶ月間、ロシア語の授業を受けました。午前で授業が終わる日は、午後には市街地の散歩や芸術鑑賞を楽しみました。寮では友人と会話や料理を楽しみ、同じ寮に住む学生の誕生日会に招かれることもありました。短いながらも印象深い留学生活でした。

③ 冒険をしましょう。それは足をひたすら動かし、豊かな経験を重ねることです。留学先での苦労も、楽しい思い出も、これからの自分を育む糧となります。



#ロシア #ロシアならではの写真
#お気に入りの1枚

留学のStudy Abroad!!!

ススス -students' voice-




大阪市立大学の留学とは

大阪市立大学には、フランス、中国、韓国などの様々な大学との間に交換留学制度があります。また、以下の国への短期留学制度があります。

- ・フランス (トゥーレーヌ語学院)
- ・中国 (華東師範大学)
- ・イギリス (シェフィールド大学)
- ・韓国 (ソウル市立大校)
- ・ロシア (サンクトペテルブルク大学)
- ・ドイツ (ハンブルク大学)
- ・カナダ (ヴィクトリア大学)
- ・台湾 (国立台湾大学国際華語研習所)

これらに参加すると、各々の外国語の単位を修得することもできます。また、私費で長期留学をする人も少なくありません。

このページでは、大学のプログラムを利用した協定校への留学をした方と、それ以外の非協定校への留学をした方、そして市文への留学生の方の実際の「声」を掲載しています。



大阪市立大学文学部協定校一覧

<p>中国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・華東師範大学 人文学院 法政学院 教育科学学院 資源及び環境学院 外国語学院 ・中国社会科学院歴史研究所 ・中山大文学部人文科学学院 ・華東師範大学対外漢語学院 ・安徽大学徽学研究中心 	<p>台湾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立台湾大学 国際華語研習所 	<p>ドイツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「恵光」日本文化センター
<p>イコドネシア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガジャマダ大学 文化科学研究科 ・インドネシア芸術大学 	<p>韓国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソウル市立大校人文科学部 都市科学部 大学院 	<p>イギリス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロンドン大学東洋アフリカ学院 ・シェフィールド大学英語教育センター
<p>アメリカ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 東アジア太平洋研究センター 	<p>タイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チュラロンコン大学 芸術学部 	<p>フランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リヨン第3大学 ・セルジーポントワーズ大学

※ここに掲載した協定校は文学部間協定校であり、この他大学間協定校として、ドイツのハンブルク大学やロシアのサンクトペテルブルク大学などがあり、また国際センターなどにも協定校があります。

りてらちゃん info **Osaka City University**

協定校に留学すると、その学校で修得した単位を大阪市立大学の単位として読み替えることができるよ！でもこの単位の読み替えは、大阪市立大学を休学したり、非協定校に留学した場合はできないんだ……。でも、認定留学という制度では、条件に合う非協定校で修得した単位を、大阪市立大学の単位に読み替えることができるんだ！その代わり認定留学制度では、大阪市立大学の授業料と留学先での授業料をどちらも負担する必要があるよ。 #協定校留学と非協定校留学の違い

あ！そうそう！このページには、留学に行った先輩や留学に来た先輩のインタビューを掲載してるんだ！インタビューでは、行った国、留学期間、留学にかかった費用と、

①留学に行った動機
②留学先でどんな学習生活を送っていたか
③これから留学する人たちに一言

が掲載されているよ！
読んでみてね(´▽`)ノ




わかばやし もえ
若林 萌 さん IRELAND

留学期間：1ヶ月 留学した時期：2回生の春
費用：53万円

① 英語への憧れと、1人で慣れない環境に行くことで自分の殻を破りたい、多様な人と出会って自分を見つめ直したいという想いが動機になりました。アイルランドに決めたのは、風景と学校の環境に惹かれたからです。

② 留学先ではホームステイをして、平日は英語の語学学校に通っていました。その学校では、世界中から来た様々な年齢の生徒と共に英語で授業や会話を行うことができました。また、放課後や休日には友達と少し離れた場所にも行き、観光や買い物をしました。

③ 普段とは違って留学では英語のことや自分の望むことだけを考えながら、毎日が特別な環境で過ごすことができます。自分の毎日を充実させてみてください！



#非協定校留学 #アイルランド
#アイルランドならではの写真
#お気に入りの1枚

いまい たつや
今井 達也 さん CANADA

留学期間：1ヶ月 留学した時期：1回生の春
費用：35万円

① 漠然と海外の文化や風土などを肌で感じてみたいという想いがあったからです。また、大学が提供しているプログラムの内容を確認して、「これなら自分でも楽しくやっていけそう」と感じたので、申し込みました。

② 午前は大学で語学研修、午後は街へ出て様々な文化に触れました。自由時間も多く、こっそりと大学の講義に潜り込んでみたり、現地のレストランを覗いてみたりと充実した日々でした。こうした経験から、「案外何とかなる」という自信を得ることができました。

③ そこまで強い決心がなくても、「行ってみたい」という気持ちがあれば大丈夫です。好奇心と柔軟な対応力を持って楽しく過ごしてください！



#カナダ #カナダならではの写真
#お気に入りの1枚

むらた まゆ
村田 真由 さん CHINA

留学期間：2週間 留学した時期：1回生の夏
費用：17万円 (夢基金からの補助により、実際は約11万円)

① 私は高校生の時から三国志が好きで、大学生になったら実際に中国に行ってみたいと思っていました。新修外国語に選んだ中国語の授業で、この上海への短期留学を紹介され、いい機会だと考えて迷わず参加しました。

② 授業は少人数制で先生との距離も近く、非常に充実していました。午後は文化講座で中国書道を学んだり、近くの大型ショッピングモールで買い物をしたりして過ごし、週末には地下鉄で都心部や観光地に出掛けました。蘇州への日帰り旅行や雑技鑑賞も楽しめました。

③ 私はこの上海が初めての海外で、中国語学習歴もたったの3ヶ月でしたが、本当に視野が広がりました。ぜひ今の中国を自分の目で見て行ってください。



#中国 #中国ならではの写真
#お気に入りの1枚

TOMOKA

2回生 心理学コース
大橋 朋佳

OHASHI



睡眠	身支度	授業	サークル活動	帰宅・夕食	勉強	空き時間	睡眠
7:00	8:55		16:15	18:00	20:00	22:00	25:00

Q. 下宿をしていて楽しいこと、大変なことは？

A. 楽しいことは、好きなときに好きなことを好きなふうにできることです。お風呂に入る前にだらだらしちゃっても、誰にも叱られません。自分でご飯作ったら、「すごい自分！えらい！」って、すごいことをした気分になります。わたしだけかもしれませんが、いろんなことを自分でできるのがすごく楽しいです。逆に大変なことは、体調を崩したときのことかなと思います。誰もご飯を作ってくれないし、動けなくなっても病院に連れて行ってくれる人がいません。絶望的です。心優しい友達がお見舞いに来てくれたときは文字通り涙が出そうでした。

	月	火	水	木	金
1		戦争と人間			部落差別の成立と展開
2	人間行動学データ解析法 I a	教育と発達心理学	地誌学 I	心理学概論 I	民俗学
3	心理学研究法 I	文化心理学特論	心理学実験演習 I	哲学史通論 I	
4	言語教育特講	動物心理学特論	心理学実験演習 II	College English V	フランス語特修 IX
5			大阪の地理		都市生活と人間福祉

	月	火	水	木	金
1					メディアと人権
2					エスニック・スタディ入門編
3			卒業論文演習		
4					
5					国語科教育法 IV

他の3人には大学生に欠かすことのできない必需品（小さめの筆箱・折り畳み傘・パソコン）を持っていただきました！

Q. これまでを振り返って大学生活はどうでしたか？

A. 大学生活は自由な時間が多く、自分の好きなように過ごすことができるのが、中学高校までとの一番の違いだと思います。大学1回生のときはこんなにも自由な時間を持てるのかと驚きました。そのため、こんな時期はこの先二度とないんじゃないかと思いき、せっかくだからと様々なことに挑戦しました。みんなと色々なところに遊びに行ったり、サークルで小説を書いてみたり、腰を据えて難しい本を読んだり、支援機構の活動に参加したり……。良い友人や先生と共に、自分のやりたいことができる、楽しい大学生活を送ってきたと思います。

ITARU

4回生 社会学コース
小坂 至

KOSAKA



	月	火	水	木	金
1					メディアと人権
2					エスニック・スタディ入門編
3			卒業論文演習		
4					
5					国語科教育法 IV

睡眠	身支度	授業	昼食	課題・読書	授業	帰宅・夕食	勉強・読書	睡眠
7:00	8:45		12:10	13:00	16:30	18:00	20:00	23:00

	月	火	水	木	金
1					メディアと人権
2					エスニック・スタディ入門編
3			卒業論文演習		
4					
5					国語科教育法 IV

	月	火	水	木	金
1					メディアと人権
2					エスニック・スタディ入門編
3			卒業論文演習		
4					
5					国語科教育法 IV

Life

～リアル市文生ライフ～

睡眠	身支度	通学	授業	帰宅	アルバイト	帰宅・夕食	テレビ	睡眠
7:00	8:05	8:55		16:15	17:30	22:00	23:00	25:00

	月	火	水	木	金
1	College English I	言語文化概論 I	中国語基礎 II a	言語文化概論 II	人間行動学概論 II
2	中国語基礎 I a	ソフトボール	College English II		
3	情報基礎			スポーツ実践科学	
4	情報基礎			現代科学と人間	中国語応用 I A
5			大阪落語への招待		

Q. 大学生になって高校と変わった点は？

A. 私服考えたりメイクしたり……おしゃれに気を使うようになりました。空きコマに昼食をとったり夜ご飯は友達と外食に行きがち。部活と違ってサークルの上下関係は緩くて先輩と親しみやすくてとても楽しいです。ただ大学生は想像以上に金欠な日々……そのためバイトを増やして家に帰る時間が遅い日が多くなりました。学業面では、自分で授業を選択できるけど、抽選で決まるものもあるので取りたい授業に当たるかは運次第な面も……また、高校までと違って、連絡事項は自分で確認しないと。情報戦に勝った人が有利な立場になるのが大学生！！



MIO

1回生 河村 美緒

KAWAMURA

睡眠	身支度	通学	授業	アルバイト	夕食	ミーティング	外部団体	帰宅	勉強	睡眠
5:00	6:45	8:55	12:10		18:00	19:00	22:00	23:00	24:45	

Q. 市大文学部でよかったと思うことは？

A. 僕が市大文学部でよかったと思うことは、様々な分野の学問が学べることです。僕は現在、教育学を専攻していますが、ずっと教育学しか学んでいないわけではありません。例えば、高校で習った慰安婦問題を生徒に教えるために深く知ろうと思いき、日本史コースの授業を受けたり、実際にクラス経営をする際に役立つような大衆心理について学んでおきたいと思いき、社会学コースの授業を受けたりしました。このように、自分が専攻している分野の学問を基盤として、様々な学問に触れることができるのは市大文学部ならではの良さだと僕は感じています。

	月	火	水	木	金
1					部落差別の成立と展開
2			地誌学 I	地理学概論 I	教育学概論 II
3	教育学演習 II	教育方法学 II		商法第1部	
4	比較国際教育学				
5			教育学演習 IV		



OHKI

3回生 教育学コース
庭瀬 央基

NIWASE

大学生の実態を知るべく、1回生155人にアンケートを実施しました。ここでしか知れない大学生のリアルを感じ取ってください。

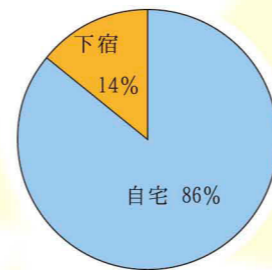
Q 授業のほかに学びの時間はあるの？

A はい、あります。例えば、特定の分野をさらに勉強したい有志が集まって勉強会（自主ゼミ）を開いたり、図書館や研究室で興味のあることについての調査をしたりしています。

Q バイトしている大学生ってどれくらいいるの？

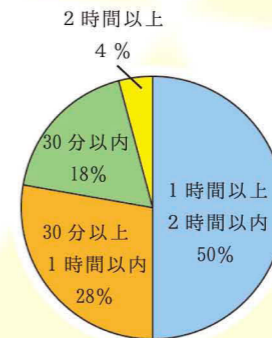
A 1回生を対象としたアンケートによると、約78%の人がバイトをしています。飲食系や教育系の業種を選ぶ人が多いです。

Q1 自宅 or 下宿？



大学生の憧れといえばやはり下宿、しかしその比率はあまり高くないようです。なかには2回生以降に下宿を始める人もいます。

Q2 通学時間はどのくらい？



半数以上の人が1時間以上かけて大学に通っています。通学時間が30分以内の人のなかには下宿している人も含まれています。

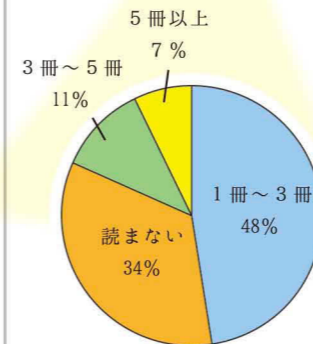
Q 大学でよく使う「レポート」と「レジュメ」ってなに？

A レポートとは、課題に対して資料などに基づいて書く、研究のための基礎であり、大学生に立ちだかる大きな壁でもあります。レジュメとは、授業内容や発表内容の概要が書かれたプリントです。先生だけではなく学生も発表するときに作成します。

Q 市大文学部の雰囲気は？

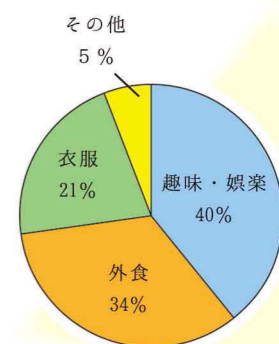
A 文学部には約70人の教員と約700人の学部生が所属しており、学生10人に対して1人の教員がいる計算になります。このことからわかる通り、学生と教員との距離がとてに近いのが特徴です。また、個性豊かで寛容な人が多いです。

Q3 1ヶ月でどれくらい本を読む？



文学部の学生は本をよく読むと思われがちですが、意外と読まない人も多そうです。よく読まれる本の種類は小説でした。

Q4 お金の使い道は？



大学生になると、趣味や娯楽にお金を使う人が多いようです。高校生に比べて、外食をする機会もふえるのではないのでしょうか？

Q オープンキャンパスや市大授業などのイベントには参加した方がいい？

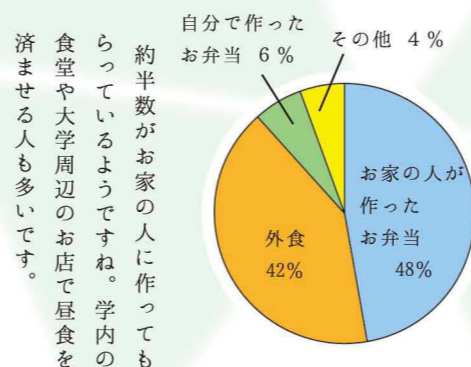
A 市大文学部に興味がある人はもちろん、興味がない人にも来てほしいです。教員による模擬授業や市大文学部生と実際に話すことで、市大文学部の雰囲気だけではなく、大学での学びや生活を知ることができます。

Q 塾や予備校に通っていた人ってどれくらいいるの？

A 1回生を対象としたアンケートによると、約68%の人が塾や予備校に通っていました。必ずしも全員が通っていた訳ではありません。

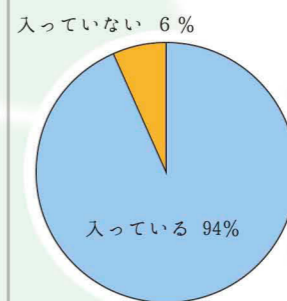


Q5 お昼ご飯はどうしてる？



約半数がお家の人に作ってもらっているようです。学内の食堂や大学周辺のお店で昼食を済ませる人も多いです。

Q6 部活・サークルには入っている？



大阪市立大学には多種多様な部活やサークルが200以上あり、2つ以上の団体を掛け持ちすることもできます。



MEGUMI
1回生 岡庭 萌
OKANIWA

前期合格者

合格体験記

○本格的に受験勉強を始めた時期は？
高2の2月から基本を全て復習し直して土台作りをし、基本を固められたと思っただ高3の8月頃から応用を取り入れて本格的な受験勉強を始めました。基本を完璧にすることで自信も学力もつきましました。

○息抜きの方法
友達と話したり、好きなものを食べたりにリフレッシュしていました。集中力が切れて勉強が手につかなくなったときは一旦ペンを置き、深呼吸をして好きな音楽を数曲聴いて気持ちを切り替えていました。

○受験期のモチベーションの上げ方
自分の志望している大学へ直接行ってみることでモチベーションが上がると思っています。私も夏休みに大阪市立大学のオープンキャンパスに来て大学の雰囲気を味わい、「絶対ここに入学したい！」と強く思えました。また大学名が書かれたペンを使ったり、大学の写真を携帯の待受にしたりなど常に目標を目につくようにしているとやる気ができました。

○小論文はどのくらい勉強した？
3月に入った段階で過去問を買ってきて、前期試験の合格発表前から少しずつやっていました。過去3年分ぐらいは解いたと思います。直前には本屋に売っている小論文の書き方の本を買ってきて、ひたすらやり方を頭に入れました。

○本格的に受験勉強を始めた時期は？
3年の春休みあたりから徐々に始まりました。ただ勉強だけという訳にはいかず、やるのが終わった9月頃から勉強に全てを注ぎました。追い込まないといけなかったのが少しきつかったです。

○息抜きの方法
お昼の食事が母親から支給されていたので、その日自分が食べたいと思うものを一人でふらっと食べに行くことで息抜きをしていました。あと友達と他愛もない話をしていただけでも案外息抜きになります。

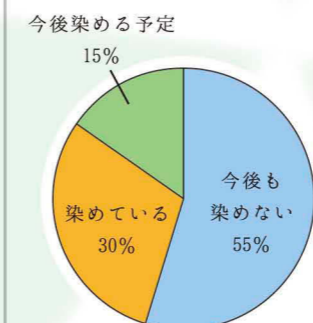
○受験期のモチベーションの上げ方
モチベーションは受験が終わってからの予定のことを考えて必死で上げていました。正直第一志望に絶対に行きたい理由がなく、最後まで市大と迷っていたのでモチベーションにはとても苦労しました。かなり悪い例なので、受験生の皆さんには第一志望に行きたい明白な理由を持ち、それをモチベーションにすることを勧めます。



AMU
1回生 山口 有夢
YAMAGUCHI

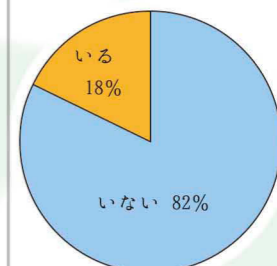
後期合格者

Q7 髪は染めてる？



大学生といえば、髪を染めているというイメージがあるかもしれませんが、実際は半数ほどの人が染めていないという事実が発覚しました。

Q8 恋人はいますか？



「大学生になったら……私にも……」一度は考えちゃいますよね。新しい環境、様々な出会いのなかで、文学部に恋人はできるのか……!?



▽ Literature Guidebook 10th Anniversary



大阪市立大学文学部の学生スタッフによって作られる文学部案内冊子は、今年で10周年を迎えました。

編集後記

▼完成!



2017

▼編集作業にはパソコンを使います。分からないところは上回生に尋ねながら、各々のページを形にしています。



▼掲載内容が決まったら、先生方や学生の皆さんにインタビューを行います。



▼スタッフは毎年文学部の学生から募集しています。今年は28人でこの冊子を作りました!



読者アンケート

このたびは、文学部案内冊子をお読みいただきありがとうございます。来年度の冊子作成の参考にするため、アンケートを実施しております。下記のQRコードまたはURLからご回答をお願いいたします。みなさんの率直な感想をお待ちしております!



URL: <http://ur0.link/EBja>

▲スタッフから選ばれた「スタイリッシュ」な3人やカメラに詳しい先輩の協力を得て、表紙の撮影を行いました。



▲理念から掲載内容まで、1回生による新しい発想や上回生の経験を活かし、みんなで話し合って案を出していきます。



リーダーのひとこと



文学部案内『L』編集長
社会学コース3回生 阿部 杏香

みなさん、大阪市立大学文学部案内冊子『L(エル)』をお読みいただき、ありがとうございます。今年のテーマは「音楽雑誌や映画雑誌のような、スタイリッシュな冊子」です。市大文学部の魅力を伝えたいという意気込みのもと、学生スタッフ28人が主体となって、企画・取材・編集を行いました。この冊子は、学部生・先生方・卒業生など、本当に多くの方々の協力のおかげで、形にすることができました。皆さんの想いが詰まったこの冊子を、すみずみまで楽しんでいただければ幸いです。

大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構



HP: <http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/education/>
twitter: @oculit_spel

「大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構」(通称「支援機構」)は、文学部50周年記念事業の一環として2003年2月10日に発足しました。会員は文学部・文学研究科のすべての学部生・院生・教員です。企画ごとに集まった学生スタッフが、教員と協働して授業の枠にとどまらない「学び」を創造する、ユニークな組織です。学生の主体的な企画運営や活動を通して、学生のさらなる成長と学部の発展をめざしています。

研究支援

文学部生の知的環境や主体的な学びの活動を支援しています。学生主催の研究会や勉強会に対して助成する自主ゼミ支援事業や、「卒業論文セミナー」、優秀卒論・修論の審査や表彰を行なっています。



編集

支援機構の活動報告や優秀卒論・修論などを掲載する機関誌『フォーラム人文学』や、市大文学部を学生目線で紹介する『文学部案内冊子』の企画・編集を行なっています。

教育支援

毎年、入学したばかりの1回生が同回生や先輩との交流を深める「新入生歓迎キャンプ」を実施しています。また、1回生が所属コースを決める手助けとなる「先輩学生によるコースガイダンス」など文学部・文学研究科の教育環境をさらに向上させる活動を行なっています。



広報

市大を目指す人や興味を持っている人を対象にトーク企画やキャンパスツアーを行なう「オープンキャンパス学生企画」や、市大文学部の先生方による模擬授業で実際の学びを体感することができる「市大授業」を開催しています。



進路支援

就職活動や教員採用試験に挑戦する学生に向けて、就活や面接など様々なテーマのセミナーを開講しています。



就活準備セミナー▶ 文学部1・2回生のための 就活準備ガイダンス 日時: 7月15日(金) 13:00~14:00 場所: 8号館B35教室

interview

参加した企画: オープンキャンパス、新入生歓迎キャンプ、春の市大授業、秋の市大授業

○企画の中に心がけていることは何ですか?
支援機構の企画では上回生の意見がベースとは限らないので、できるだけ周りの人の話を聞くことは大切だと思っています。また企画を「何となく」進めるのではなく、理由や目的を持って取り組むことも大事にしています。

○企画の楽しさ・やりがいについて聞かせてください。
みんなと協力し助け合うことで一人ではできない大きなことができるのはやりがいのあることだと思います。そのなかで壁にぶつかるところもありますが、その分乗り越えたときの達成感も大きいです。

○支援機構の活動に参加しようと思ったきっかけは何ですか?
大学に入って新しく熱中できるものがあればと思っていました。オープンキャンパスの企画スタッフ説明会に行くと先輩が優しく、楽しそうだったので参加しようと思いました。高校生のとき「秋の市大授業」に参加し、スタッフに憧れを抱いたのもきっかけの一つです。

○企画を通して得たものはありますか?
パソコンを使うスキルや、ディスカッションを行ない何かを決定する力、期間内にタスクをこなすスケジューリングの力も身につきました。また企画では色々な人と話す機会が多く、自分では気づけなかったことに気づくこともできました。



社会学コース
3回生
たにくち ゆきこ
谷口 優希子 さん

2017



Faculty of Literature
and Human Sciences
Osaka City University

発行：大阪市立大学大学院文学研究科・文学部
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

発行日：2017年8月5日

ホームページ：www.lit.osaka-cu.ac.jp

企画・編集：大阪市立大学大学院文学研究科・文学部
文学部・文学研究科教育促進支援機構

編集スタッフ

▼ 4回生

Domi
稲富 航平

▼ 3回生

Abbey
阿部 杏香

Tecchan
崔 激

Ringo
中尾 なつみ

Hibiki
松井 響

Moripon
森本 雅大

Anko
吉岡 杏子

▼ 2回生

Yumemi
岸 夢美

Kyon
中川 京香

Don
仲林 亮祐

Machiko
西尾 真知

Megudon
古川 恵

▼ 1回生

Panda
石塚 春樹

Ibuchan
大久保 伊吹

Meg
岡庭 萌

Nanase
沖田 七瀬

Onochan
小野 愛

Nanamin
小林 奈波

Eribou
清水 英里香

Tumutumu
津村 紗綾香

Nakamu
中村 愛

Na-ko
西原 華

Azuchan
長谷川 梓

Hamachi
濱田 一輝

Shino
東野 桃

Fujihina
藤井 日向子

Yana
安田 奈央

Amudon
山口 有夢

